

礼拝指針

序文

a. この『礼拝指針』は教会生活は一つであり、教会の礼拝と、証しと、奉仕は切り離すことができないという確信を表明している。この神学は聖書に基づいており、アメリカ合衆国長老教会の『信条書』(*The Book of Confessions*)の路線に従い、エキュメニカルな検討に関心を向けようとしている。またこの『指針』には長老教会の諸伝統の豊かな遺産と諸文化の多様性が反映されており、またそれらを奨励している。礼拝指針はいくつかの固定した礼拝順序を載せた礼拝書ではなく、祈祷や儀礼を収録したものでもなく、あるいはまたプログラムの手引きでもない。むしろ、それは改革教会の礼拝を強調し、その礼拝にふさわしい様式を概略する神学を説明している。この指針は礼拝の幾つかの可能性を提言し、礼拝の発展をうながし、またその継続的な改革を勧めるものである。これはアメリカ合衆国長老教会の諸教会と統治機関で通常行われている礼拝行為の基準を設定し、規範を示している。この礼拝指針はアメリカ合衆国長老教会 (Presbyterian Church (USA)) の礼拝秩序を示す公的な憲法文書として権威をもっている。

b. この指針は『教会規定』(*Book of Order*)の序文で定義された用語に加え、礼拝を平易に説明する言葉を用いている。

c. この『礼拝指針』を執筆するにあたっては、聖書を通して語られる聖霊に聞くことと、『信条書』(*The Book of Confessions*)に導かれることにことさらに努力した。文中の言葉が聖書、あるいは信仰告白のどれかから直接引用されたところには、その注を本文中に付してある。この『礼拝指針』(W-)の他の項目や『政治基準』*The Form of Government* (G-)、『訓練規定』*The Rule of Discipline* (D-)を参照する場合は、利用者の便宜のために本文中に括弧でくくって記してある。ページの下にある注はこの指針が発展形成の資料となった聖書と信仰告白の箇所を明記している。これらの注は、また、教会のなかのいろいろなレベルでこの指針を教科書、もしくは資料として教えようとする読者のための聖書と信仰告白の手引きになる事をももくろんでいる。

¹以下の略語が全体にわたって使用されている。

G- Form of Government (政治基準)

W- Directory for Worship (礼拝指針)

D- Rules of Discipline. (訓練規定)

第1章

キリスト教礼拝の原動力

W-1.0000

W-1.1000

1. キリスト教礼拝： 序

W-1.1001

キリスト教礼拝

キリスト教礼拝は喜びをもって、すべての讚美と、誉れと、栄光と、力を三一の神に帰することである。礼拝において、神の民は世界と彼らの生命に臨在される神を認める。イエス・キリストにおける神の求めと救贖の行為に応える時に信仰者は造り変えられ、再び新しくされる。礼拝において、神に忠実な者は自らを神に献げ、世界における神の業へ備へられる。

W-1.1002

神の主導

a. 神の霊は人々に神の恵みと求めが、彼らの生涯に及んでいることを速やかに気づかせる。神の霊は人々に働き神の御名を呼び、神に求めさせる。また、言葉と行為のうちに示されている神の自己啓示の行為を想起し、それを宣教することによって応えさせる。そして、この世において彼らの生涯を神の支配の下に委ねる。

神の人間との出会い

b. 神の民が最初に得た追想録は神と人類との出会であると述べている。神は率先して創造し、契約を結ばれ、悔い改めを求め、赦しを差し出される。神は植え、引き抜く。神は裁き、祝福される。(エレミヤ 1 : 10)

人間の状態へ入られた
神

c. イエス・キリストにおいて、神は自己啓示と、贖いと、赦しの行為を行うために、完全に人間の状態に入られた。この世の崩壊の中に入られた神は、イエス・キリストにおいて罪を贖い、人間の命を回復された。このように造られた世界に入られて神は、時間と空間、物質と人間の命を彼らの創造主を知り讚美する器として完成するに至らせた。

w-1.1003

イエス・キリスト

a. イエスの人格と御業において、神と人間の命は、一つに結合されており混交されることなく、また区別されるが、分離されない。

W-1.1001: イザヤ 6; 黙示 4:11; スコットランド信仰告白 3.01; 2 Helv. Conf 5.023, 5.135 ウェストミンスター信仰告白 6.112, 6.113; 大教理問答 7.214, 7.215; 小教理問答 7.046, 7.047, 7.050, 7.051; 1967年信仰告白 9.35-9.37

W-1.1002: ローマ 10:13; I コリント 11:26, 12:3; スコットランド信仰告白 3.02, 3.04-3.06, 3.12; 1967年信仰告白 9.07-9.09, 9.18, 9.20

W-1.1003: エレミヤ 33:1-9; ヨハネ 1:1-14, フィリピ 2:9-11; ヘブライ 1,2; 黙示 19:11-16; スコットランド信仰告白 3.06, 3.09-3.11; 第二スイス信条 5.062, 5.064, 5.146; ウェストミンスター信仰告白 6.043-6.047; 1967年信仰告白 9.07-9.11, 9.19

完全な人間の応答

b. ナザレのイエスは完全な人間としての応答を神に献げられた。贖う命は贖われた命の形と目的を啓示する。イエスの命は真のキリスト教の礼拝の特性を開示する。

日常生活において生きる神

c. イエス・キリストは日常生活に臨在される生ける神である。信仰の証しにおいて宣教される神は

- (1) 創造の時に語られた神の言であり、
- (2) 契約の歴史を貫いて約束し命令する神の言であり、
- (3) その神の言は
 - (a) 肉となりわたしたちの間に宿られ、
 - (b) 十字架につけられ、力のうちに復活し、
 - (c) 勝利のうちに再び来られ、裁きと支配を行う方である。

W-1.1004

御言葉と聖礼典におけるイエス・キリスト

聖書一書かかれている御言葉、説教一宣教される御言葉、聖礼典一執行され、封印される御言葉は生ける神の御言イエス・キリストを証言する。聖書と宣教と聖礼典をとおして、キリストにおける神は聖霊によって臨在し、人間の生を造り変え、力を与え、保持される。キリスト教の礼拝において、神の民は

- (1) 宣教される神の御言葉を聞き、
- (2) 聖礼典で執行された神の御言葉を受け入れ、
- (3) 世界に働き給う神の御言葉を発見し、そして、
- (4) 世界へ御言葉に従うために遣わされる。

W-1.1005

共同体におけるキリスト者の神への応答

a. 初めから、神は女性と男性を交わりのために創造し、一つの民を契約へと招かれた。イエスは、イエスの名において集う人々を呼び集め、権限を委託し、共にいますことを約束された。聖霊は新しい契約共同体を召し、集め、命じ、これに力を与えて下さる。その聖霊が一人一人に賜物を与え、キリストの体を建て、ミニストリーの業に備えさせて下さる。キリスト者個人としての神への応答は共同体の中にある。

礼拝と奉仕における神への応答

b. 神の民は、祈りと宣教と想起、また奉献の行為のなかで讃美と感謝の言葉と行為をもって応答する。キリストの御名により、聖霊の力

W-1.1004: ヨハネ 1:14-18; ローマ 10:8; II コリント 4:4b-6; フィリピ 2:5-11; コロサイ 1:15; バルメン宣教 8.11, 8.14, 8.17; 1967年信仰告白 9.07, 9.20, 9.27, 9.30, 9.35-9.37

W-1.1005: マタイ 28:20; ヨハネ 14:18ff; ローマ 12:6,8; I コリント 12; エフェソ 4:12ff; I ペテロ 4:10; ハイデルベルク信仰問答 4.055; 1967年信仰告白 9.17-9.19, 9.20, 9.22, 9.31-9.33

によって、キリスト者の共同体は、神を礼拝し、神に奉仕する。

- (1) 生活経験を共有して、
- (2) 一人の弟子として、
- (3) 相互のミニストリーにおいて、そして、
- (4) この世界における共通のミニストリーにおいて。

W-1.2000

2. 礼拝のことば (用語)

W-1.2001

神への応答のことば

神は全てのものを御言葉によって存在せしめる。神は恵みの御言葉を提供し、人々は礼拝のことばによってその聖なる先行的な御言葉に応答する。彼らは名ざして神に呼びかけ、神の臨在を願い求め、祈りによって神に懇願し、沈黙と黙想で神の御前に立つ。彼らは神に頭を垂れ、両手と讃美の声を上げ、歌い、音楽を奏で、踊る。心と魂と力と精神を一つに調和させ、彼らはことばとドラマと荘厳な神礼拝の式典に加わる。

W-1.2002

象徴的なことば

人々が神に応答し、互いに神の経験を伝える時は、彼らは象徴的な手段を用いなければならない。なぜなら、神は被造世界を超越しており、その中のいかなるものにも還元されることができないからである。単なる人間の象徴は神の豊かさを掌握するには充分であり得ない。神の実在と同等のいかなるものも存在しない。しかしながら、人間が用いる象徴はこの世における神の恵み深い活動を理解し、共有し、それに応答するのに足り得る。なぜなら、神が自己啓示において以下のように、ご自分を人間に順応させて下さることを選ばれたからである。

- a. 創造された秩序を通して、
- b. 契約の歴史の出来事において、そして、
- c. 最も完全な仕方で受肉した御言イエス・キリストにおいて。

語られ、あるいは執行される象徴は、イエス・キリストの生と死と復活に忠実である限り、キリスト教の礼拝にとって真正であり適切である。

W-1.2003

旧約聖書の象徴

神の民が聖なる方を礼拝した時、彼らは人間の経験から出た象徴を用いて、神を創造主、契約者、解放者、審判主、贖い主、羊飼い、慰め主、主権者、父親、子を担う者として語った。彼らはまた、自然の世界から、神の特性を岩、水源、火、鷲、雌鳥、獅子、あるいは光と言い表した。彼

W-1.2001: 第二スイス信仰告白 5.217; 1967年信仰告白 9.50

W-1.2002: イザヤ 40:18-25, 55:8, 9; ヨハネ 1:1-18; ローマ 11:33-36; コロサイ 1:15-20; ヘブライ 1:1-3

W-1 2003: 詩編とイザヤ書、他の詩的な書と預言書

らの礼拝はまた象徴的な行為によることばで満ちていた。

断食と祝い、
喜びと嘆き、
行進と休息、
舞踏と拍手する手、
清めと奉献
割礼と油注ぎ、
焼き尽くす献げ物と罪の贖いの供えもの
正義を行うことと憐れみを行うこと、
音楽を奏でること、主に向かって歌うこと、である。

W-1.2004

新約聖書の象徴

a. イエスは神ご自身に語りかけ、神について語る時に、旧約聖書の象徴とイメージを使用された。イエスはイスラエルの礼拝の象徴的な行為に参加された。多くの場合イエスは、特に、父という語の親密な使用方法であるアッパに見られるように、神を人格化し、神に用いられた象徴に新しい深みを与えられた。イエスはご自身について旧約聖書の多くの象徴的なことば—良い羊飼ひ、イスラエルの花婿、人の子—を使って話され、その意味を強められた。イエスはまた、施し、洗礼、パン裂きのような当時の宗教的実践に新しい意味を盛り込んだ。日毎の生活の中で、イエスは日常的な人間の憐れみの行為—病人を癒し、飢えを満たし、足を洗う—を取り上げ、それらを神に仕える方法に翻訳された。

新しい象徴の焦点で
あるキリスト

b. 復活された主として、イエス・キリストは、新しい象徴の焦点になった。新約聖書の著者たちは、良い知らせを伝えることを追求するにあたり、新しい実在を盛り込むために、キリストを第二のアダム、神の小羊として記して、旧約聖書の象徴的なことばを用いた。それに加え、彼らは新しい象徴的なことばを次のように使用した。永遠の御言、全被造物のなかで最初に生まれた者、敵意という隔ての壁を取り壊したわたしたちの平和。またイエス・キリストは讃美歌や他の讃美の形で、神が世界のためにいますことの全てを啓示する真の象徴として誉め讃えられた。(W-1.1003-1005)。

W-1.2005

真正で適切なことば

教会は時代を貫きそれぞれの文化の中であって、礼拝において聖書の象徴、イメージ、物語、ことばを用い、また新しい目的に合わせてきた。教会がこのことばを使用することが必ずしも真正で相応しいわけでもない。様々な表現を有する改革教会の伝統にとっては、歴史的、文化的に使用されてきたことばがイエス・キリストにおける神の聖書的な証しを反映しているならば、そのことばは適切であると立証される。礼拝する共同体が讃

W-1.2004: ヨハネ 1:1,36; I コリント 15:45; エフェソ 2:14; コロサイ 1:15

美と感謝を神に献げる時に用いることばが、自らのものであると主張できる
ときに、そのことばは適切であると立証される。適切なことばとは、その本
質から、

- a. 合理的であるというよりはより表現的である。
- b. 情報を知らせ、描写し、その上建設的であり、説得的ある。
- c. 秩序と同時に情熱を造りだす。
- d. 個々人の信心深い発声と同時に、信仰共同体全体の発声である。

適切なことばは、自らが話したり行動したりする形の中に、聖書の真理が真
正であることを反映している多様な伝統を認めようと努力している。そうす
ることによって、教会は伝統のことばを尊び、適切に用いる。しかしながら、
教会は礼拝に適したことばを探し求めることに刷新的である事は自由である。
由緒のある形式や定まった秩序を尊ぶ傍ら、教会が、それぞれの時代におい
て、神の聖霊の導きに自由に応答して、それらを再形成することが
出来る。

W-1.2006

包括的なことば

a. アメリカ合衆国長老教会はイエス・キリストにおいて一つに結び合
わされた人々の家族であり、その礼拝にふさわしいことばはこれらの人々の
豊かな多様性を示すものである。礼拝の形式、行為、ことば、背景が教会で
見られる多様な文化的表現を排除したり、信仰者のなかで見られる必要性や
彼らの主体性を無視したりするなら、その礼拝はイエス・キリストの生と死
と復活に忠実ではない。

多様なことば

b. 教会の礼拝で用いる神に関することばは聖書や我々の神学的伝統で
見られるように意図的に多様で異なっているものを使用するように努めるべ
きである。教会は信仰共同体の構成員は全員が一つに包括されており、語り
かけられ、神の前で平等に愛されていることを認識出来るようなことばを使
うように努める。全世界に証しをしようとするに当たり、教会は聖書の真理
に忠実であり、その上、ジェンダーや皮膚の色、あるいはほかの生活環境に
ある人々を意図的に、あるいは軽率に排除しないようなことばを用いるよう
に努力する。

W-1.2006: 1コリント9:19-23; 10:23, 24, 31-33; ガラテヤ3:28; ヤコブ2:1-9

W-1.3000

3. 時間、空間、物質

W-1.3010

a. 時間

W-1.3011

安息日、主の日

(1) キリスト者は何時礼拝をしてもよい。全ての時間は神によって聖別されているからである。契約共同体は毎日礼拝した。しかし、神は7日のうち1日を主のために聖別した。旧約聖書では、安息日は完全に区別されていて、この日を主に献げる日と理解されていた。新約聖書では週の最初の日、すなわち、復活の日は新しい契約の民がイエス・キリストにおける神を礼拝するために集う時と見なしていた。信仰者はこの日を主の日と呼ぶようになった。

御言葉と聖礼典

(2) 最初期の時代から、教会は主の日に御言葉の説教と講解と聖礼典を祝うために集った。改革教会の伝統では主の日の重要性を御言葉に聴き、復活の主と出会う期待をもって聖礼典を祝い、祈りと奉仕をもって応答する時間として強調してきた。

(W-3.2001; W-5.5001)

W-1.3012

日毎の礼拝

(1) イスラエルの礼拝では、日毎のきまった時間を讚美と感謝の献げものの時として選び分けた。神殿が消失した後でさえ、朝、昼、夕は祈りの時間として定められた。イエスは祈りのために定まった時間を選び分けた。信仰共同体は日毎に神殿や二階部屋、そして、彼らの家庭で祈るために集まった。新約聖書の著者たちは教会に絶え間なく祈るように勧めた。教会は時代を通して、日々の祈りのために特別の時間を持ち続けてきたが、歴史的にこれを日毎の務めとして知られるようになった。

祈りと聖書

(2) 改革教会の伝統では日毎の務めのありかたを祈りのための機会にするだけでなく、共同での聖書朗読と解説のための機会に提供してきた。日毎の公的礼拝は、共同体の内部とそれ自体を牧することになるので、教会の活動と証しの次元で推奨されている。生活様式の変化は家庭における祈りと個人の信仰生活の表現も変えられてきているが、これらはキリスト者の生活にたいする整った訓練の一部として勇気づけられる。(W-3.4000; W-5.2000; W-5.7000)

W-1.3011: 創世記 1:3, 14 ff. ; 2:3; Ex. 20:8-11, 申命記 5:12-15 ; 使徒 20:7; 黙示 1:10; ハイデルベルク信仰問答 4. 103; 第二スイス信仰問答 5. 223-5. 226; ウェストミンスター信仰告白 6. 118-6. 119 ; 小信仰問答 7.06 ; 大教理問答 7:226-7. 227

W-1.3012 使徒 1:14;2:42; 10:9; ウェストミンスター信仰告白 6.117

W-1.3013 教会暦
神が日々を創造し指定された時に、神は時間のリズムを創造し礼拝のための季節を定められた。旧約聖書では人々は断食と祭りの季節を神の祝いの礼拝の機会として守った。イエスはこれらの祝祭を守られた。新約聖書の教会にとって、祝祭日の意味と目的は、イエスの生涯と教え、死と復活、そして、聖霊の賜物によって変えられた。イエスの誕生、生、死、復活、昇天、そして、約束された再臨が、礼拝の年間リズムを定める季節に意味を与え、教会生活において朗読され、説教されるべき聖書箇所を選択を導いてきている。(W-3.2002;W-3.2003)

W-1.3020 b. 空間

W-1.3021 旧約聖書
キリスト者はどんな場所でも礼拝することが許されている。時間を創造された神は空間も創造され、それに秩序を与えられたからである。旧約聖書は神は多くの色々な場所で人々と出会ったことを告げている。しかしながら、特定の場所が人々と神との特別の出会いの場所であると認識されるようになった。そこで彼らはその出会いを想起し強調するために、空間を整理した。族長たちの石の祭壇、神の放浪の民の会見の幕屋、エルサレムの神殿、あるいは離散の民の家のシナゴグ礼拝など、それぞれの場所は神の臨在を表すところへと秩序づけられた。

W-1.3022 イエス
イエスの生涯は契約共同体の神礼拝の場所に関する理解を反映している。イエスはシナゴグ、神殿、荒野、ガリラヤの丘の中腹で礼拝された。イエスは神がどれか一つの場所に限定されるという概念を強く否認された。

W-1.3023 初代教会
キリスト教の礼拝の実在を見分けるのは場所や空間ではなく神の臨在である故、初代のキリスト者は神殿やシナゴグ、家やカタコンベ、牢の中で礼拝をすることが出来た。彼らの中で御言葉が説き明かされ、パンが裂さかれるところにはどこであってもキリストが臨在され、その空間は聖別された。しかしながら、教会は復活のキリストが臨在されるところに集う特別の場所をもうけて、讚美と奉仕による応答をするようになった。今日に至るまで、教会が集まる時は、それは特殊な場所ではなく、共同体の只中における復活の主の臨在であり、それが礼拝の実在を示している。

W-1.3024 空間の配置
ある場所を礼拝のために設けると、それは近づき安く、集まりやすいように備えなければならない。それは共同体の感覚を生み出し、人々に神の前で崇敬の念を啓発するようにしなければならない。また、聖書朗読

-
- W-1.3013 ローマ 14:5,6 コロサイ 2:16,17
W-1.3020 ウェストミンスター信仰告白 6.117
W-1.3022 ヨハネ 4:21-24
W-1.3024 第二スイス信仰告白 5.214-5.216

と説教、もしくは、御言葉の講解のための場所を備えなければならない。それはまた、聖礼典を祝い適切に執行するために、洗礼のための洗礼盤あるいは水槽を、また、会衆が主の晩餐を祝うのにふわしい食卓を備えなければならない。この空間の配置は御言葉と聖礼典が統合された関係であることとキリスト教礼拝の中心点が目に見える形で表現されるようにしなければならない。

(W-1.4004)

W-1.3030

c. 物質

W-1.3031

旧約聖書

神は物質の宇宙を創造し、それを良いと宣言された。契約共同体は物質の世界は神の栄光を映しだしていると理解した。彼らはまた物質の实在が神へ献げる適切な讃美と感謝を表すための手段となり得ることを理解するようになった。契約の箱、供えのパン、織って刺繍を施された亜麻布、水盤、油、光、楽器、穀粒、果物、動物など、全ては共同体の神礼拝の表現となった。しかし、預言者たちは物質を自己奉献の代用物とすることを警告した。

W-1.3032

イエス

イエス・キリストにおいて、言が肉体となり、神は物質の实在を聖別された。イエスはご自身の体を生きた献げ物として献げられた。イエスのミニストリーのなかで、イエスは網や魚、籠や壺、軟膏、粘土、手ぬぐい、水盤、水、パン、ぶどう酒といった日用品を使用された。これらの物質から出来た物により、あるいは、なそれらを通して、イエスは人々を祝福し、癒し、和解させ、共同体の中へと結び合わせ、神の国の恵みと力と臨在を示された。

W-1.3033

教会：聖礼典

(1) 初代教会は、イエスがご自身の命を奉献なさったように、生活の三つの基本的な物質的要素—水、パン、ぶどう酒—を神に命を奉献する根本的な象徴として取り入れた。洗礼の水によって洗い清められ、キリスト者はキリストにある新しい命を受け、その体を生きたいけにえとして神に差し出した。パンを食し、ぶどう酒を飲み、キリストの養いの臨在を受け、神がなさった契約の約束を想起し、服従の誓いを新たにした。

W-1.3031 アモス 5:21-24, イザヤ 1:11-17, ミカ 6:6-8; 参照 詩 50; 1967年信仰告白 9.16

W-1.3033 スコットランド信仰告白 3.21; ハイデルベルク信仰問答 4.066-4.068; 第二スイス信仰告白 5.169-5.180; ウェストミンスター信仰告白 6.149-6.153; 小教理問答 7.092-7.093; 大教理問答 7.272-7.274

改革教会の伝統：
聖礼典

(2) 改革教会の伝統は洗礼と主の晩餐を神によって制定され、キリストによって命じられた聖礼典として理解している。聖礼典は教会におけるキリストの現臨と力のしるしであり、神の行為の象徴である。聖礼典を通して、神は信仰者に贖いの印章をし、神の民としての身分を再び新たにし、彼らを奉仕のためにしるしづける。(W-3.3601)

W-1.3034
礼拝における物質
の使用

(1) 教会は、キリスト者の生活とキリスト者に属している全ての物が創造主のものであり、礼拝ではそれらを神に献げられることを認めてきた。この自己奉獻のしるしと象徴として、神の民は自己の作品と物質的所有物を神に献げてきた。色彩、織地、形、音、そして、動きの豊かさが礼拝行為の中に持ち込まれた。

芸術的な表現

(2) 改革教会の遺産では物質の献げ物を礼拝へ持ってくることを求めている。それらは、単純な様式と機能をそなえていて、神が行われたこと、そして、神が人間の生に要求されることに直接注意を向けるような物である。神の民は建造物、家具、調度品、祭服、音楽、演劇、ことば、そして、運動における創造的な表現によって応答してきた。これらの芸術的な創作がわたしたちを神の臨在へと目覚めさせる時、それらは礼拝にふさわしい。それらが自分自身への注意を喚起させたり、それ自体を目的としてその美を示したりするなら、それらは偶像崇拜になる。芸術的な表現は神の實在と神の恵みについての礼拝者の意識を喚起し、育み、強め、広げていくべきである。

W-1.3040
伝道

全ての時間と全ての空間、全ての物質は神によって創造され、イエス・キリストによって聖別された。特殊な時間、特別な場所で、神の物質的賜物を使用して行われるキリスト者の礼拝は、時間を贖い、空間を聖化し、物質の實在を神の栄光のために造り変えようとする神の目的に教会を参加する世界の歩みに導くべきである。

W-1.4000 4. 礼拝に対する責任と説明責任

W-1.4001
責任

礼拝において、教会はキリストにある自由と全てのことを秩序正しく行うことを示す聖書の命令があることを想起するべきである。キリスト者の礼拝は規定された形式に従う必要はないが、軽率で秩序の乱れた礼拝は神に対する攻撃であり、神の民の躓きになる。礼拝に責任を負う者は聖書において語り給う聖霊、公同教会の歴史的経験、改革教会の伝統、『信条書』、礼拝共同体の必要、個別の環境、そして『政治基準』とこの『礼拝指針』によ

W-1.3034 第二スイス信仰告白 5.020-5.022; 1967年信仰告白 9.50

W-1.3040 ミカ 6:8; ローマ 12:1; エフェソ 6:16; ヤコブ 1:22-27; ウェストミンスター信仰告白 6.174

W-1.4001: ガラテヤ 5:1; Iコリント 14

って導かれなければならない。(W-3.1001; W-3.1002)

W-1.4002

再吟味と監督

これらの指導諸原則が守られていることを確実にするため、個別の礼拝をする会衆のミニストリーを監督、再吟味をする責任を負う中会の代表者は、それらの小会と、礼拝の質、その統治基準について話し合うべきである。また、福音を宣教し、そして喜びと正義を交わしあう神の民の生活で生み出される果実について話し合うべきである。(G-11.0502c)

W-1.4003

礼拝に参加し、指導できる者

誰でもが参画する業としての礼拝で、教会は、王的な祭司職をイエス・キリストにおいて担っている。神の民は礼拝における共同のミニストリーに参加するよう招かれている。いかなる者も人種、肌の色、階級、年齢、性、あるいは障害があるとの理由で、主の家における公同の礼拝から排除されたり、その指導者になることから除かれたりしてはならない。賜物や訓練により礼拝における特殊な指導につくことが出来る人がいることは望ましい。礼拝の指導に当たる能力を備えている会員や任職を受けた役員を励ますことは妥当である。

W-1.4004

小会

個別的教会では小会が礼拝の必要な準備をしなければならない。小会は神の民が礼拝に手落ちなく、決まって参加するように勧めなければならない。小会が準備をする恒常的な事項は以下の通りである。

- a. 御言葉の説教、
- b. 聖礼典の執行、
- c. 共同の祈り、
- d. 歌による神へ讚美の献げもの (W-2.0000; W-3.0000)。

小会が持つ権能は

- e. 個別的教会の公同の礼拝について、牧師のみに託されている責任事項を除いた、全ての事柄を監督し、承認すること。

(W-1.4005)

- f. 礼拝を行うための機会、日、時間、場所を決定する。

小会が責務を負うことは

- g. 配置と設備を含めた、礼拝が行われる場所。
- h. 花やロウソクや旗、パラメント、そして、他の芸術品のなど特別な備品の使用について、
- i. 教会における音楽と他の芸術品の計画全般について、
- j. 音楽や演劇、舞踏や他の芸術を通して礼拝を指導する人々につ

W-1.4003: I ペトロ 2:9 ff; 1967 年信仰告白 9.39

W-1.4004: 1967 年信仰告白 9.50

いてである。(G-10.0102d)

W-1.4005
牧師

a. 牧師である教職者ははっきりした責任を負っているが、それについては小会の権能は及ばない。礼拝のなかで、牧師が責務を負う特別な奉仕は

- (1) 朗読される聖書箇所を選択、
- (2) 説教あるいは御言葉の講解の準備とそれを語ること。
- (3) 会衆の代わりに捧げる祈りと、礼拝において会衆が用いるために用意する祈り。
- (4) 歌われる音楽。
- (5) 演劇、舞踏、他の芸術形態の使用。

牧師は礼拝の特別な形体の礼拝を計画する時間は礼拝委員会に相談することが出来る。(G-6.0202)

牧師と聖歌隊の
指揮者

b. 聖歌隊指揮者か他の音楽指導者がいる場合には、牧師とその指導者は協議してアンセムと他の音楽が個々の礼拝にふさわしいことを認証する。小会はこれらの協議が適切に、かつ正規の基準に基づいて行われたことを見るべきである。

W-1.4006
小会と牧師

礼拝要素の順序とその均衡は小会の同意を伴う牧師の責任である。公同の礼拝で使用する讃美歌集、歌集、礼拝書、聖書、そして、他の資料の選択は牧師の同意を伴う小会の責任であり、小会が可能ならば音楽家や教育者と相談することが出来る。

W-1.4007
小会
教育の責任

人々が礼拝に参加することを勧めるための責任をはたすにあたり、小会は、会衆構成員の年齢、関心、環境にふさわしい方法で、キリスト教礼拝の教育を提供すべきである (W-3.5202,W-6.2000; G-10.01202d,e,f)。小会はまた、教会役員の教育にこの『指針』の学びを定期的に行わなければならない。(G-10.0102k,l)。

W-1.4008
中会への説明責任

礼拝の責任を果たすに当たり、牧師と小会は中会に対して会員に対する憲法上の監督規定の行使について説明責任を負っている。(G-11.0502c)

W-1.4009
中会の教育責任

中会は、構成諸教会に礼拝についての奨励、指導と資料を提供する責任を果たすにあたり、適切な教育上の行事を準備しなければならない。中会はまた、任職候補者や、教職者でその資格を継続するための試験を行うに際して、この『指針』を用いて礼拝についての教育を準備しなければならない

い。(G-11.0103f; G-14.0482; そして、G-11.0404-.0405)

第2章

W-2.0000

キリスト教礼拝の要素

W-2.1000

1. 祈り

W-2.1001

キリスト者の祈り

祈りは礼拝の中心にある。祈りにおいて、人々は聖霊により、イエス・キリストにおいて啓示されてきた唯一の眞の神を尋ね求め、また、またその神に見出される。彼らは神に聞き、神に仕え、名ざしで神を呼び求め、神の恵み深い行為を想起し、自分自身を神に献げる。祈りは話されたり、歌われたり、沈黙のうちに捧げられたり、あるいは、演じられる。祈りは聖霊への応答として個人生活の中心から成長する。祈りは聖書に記された神の御言葉と、信仰共同体の生活によって形作られる。祈りは、世界における神の御業に加わる献身を起こす。

W-2.1002

祈りの内容

祈りにおいて、わたしたちは多くの方法で神に応答する。眞の神を礼拝するとき、神が神でいます故に神を讃美する。感謝の祈りにおいて、神がなされたことに感謝の意を表わす。罪の告白において、個人として、一つの民として行ったこと、また、行わなかったことの故に悔い改めを認める。願いにおいて、自分自身のために、そして、集った共同体のために懇願する。執り成しにおいて、他者のために、他者に代わって、また全世界のために懇願する。自己奉獻において、自分自身を神の目的と栄光のために献げる。

W-2.1003

祈りとしての着楽:
会衆の歌

歌は自己の全てを祈りにかかわらせる応答である。信仰深い人々が礼拝を献げるために教会、家庭、あるいは他の特別な場所などどこに集うとも、共通の祈りを捧げるところでは、歌は彼らを一つにする。契約の民は祈りをささげるために歌の賜物をいつも用いてきた。詩編は神への応答として信仰深い人々により歌うために創られた。これらは応答的に、もしくは声を合わせて読まれるが、それらは歌われるときに、そのあふれる力を表わす。詩編に加え、新約聖書における教会は讃美歌と靈的な歌を歌った。諸時代を通し、様々な文化から、教会は会衆の祈りのための付加的な音楽

W-2.1000: ハイデルベルク信仰問答 4.116-4.118; 第二スイス信条 5.218-5.221; ウェスト
ミンスター信仰告白 6.114-6.115; 小教理問答 7.098-7.099; 大教理問答 7.264,
7.288-7.296; 1967年信仰告白 9.50

W-2.1003: エフェソ 5:19; コロサイ 3:16

様式を展開させた。会衆は彼ら自身の文化の音楽形式と同様、祈りのための多様な音楽様式を用いるように勧められている。

W-2.1004

祈りとしての音楽
聖歌隊と器楽

祈りを歌う会衆を導くことは聖歌隊や他の音楽家たちの主要な役割である。聖歌隊はまた、イントロイト〔参入唱〕、応答その他の音楽様式によって会衆を代表して祈ってもよい。言葉が祈りにとって本質的ではない以上、器楽が祈りの形態になってもよい。礼拝において音楽は娯楽や芸術的な誇示のためであってはならない。また、それが単に沈黙の覆いとして用いられないように注意しなければならない。祈りとしての音楽は人々に代わって神にささげるに値する。(W-2.2008; W-3.3101 も見よ)。

W-2.1005

行為で表される祈り

旧新約聖書や、歴史を通して、神の民は語りと歌に加え、行為によって祈りを表明してきた。それ故、今日、礼拝にふさわしいのは、

- a. 祈りにおいて、ひざまずき、頭を垂れ、立ち、手を挙げることであり、
- b. 踊り、拍手し、喜びと讃美をもって抱擁することであり、
- c. 執り成しと、願いと、任命と、任職において油を注ぎ接手することである。

W-2.2000

2. 朗読され、説教される聖書

W-2.2001

聖書の中心性

聖書は書かれた神の言で、神の自己啓示を証している。教会は告白している。御言葉が読まれ、説教されるところに生ける御言であるイエス・キリストが聖霊の内的証示によって臨在される。それ故、御言葉を朗読し、聞き、説教し、告白することがキリスト教礼拝の中心である。小会は公同の礼拝において各個教会の共通のことばによって定期的に朗読され、説教されることを認証しなければならない。

W2-2002

聖書箇所を選択

御言葉と聖礼典に仕える教職者は公同の礼拝の全ての礼拝式で朗読される聖書箇所を選択に責任を負い、礼拝の間中、人々が聖書の使信をもれなく聞くことができるよう注意を払うべきである。主の日の礼拝では旧約聖書と新約聖書の書簡と福音書からの部分が朗読されることが適切である。詩編の全範囲も礼拝で朗読されるべきである。

W-2.2003

聖句日課

公同の礼拝における聖書朗読の選択は教会暦の季節、地域会衆と世界の出来事と状況に、そして、教会の具体的な計画の重点にたいする牧会的配慮によ

W-2.2000: スコットランド信仰告白 3.18-3.19; 第二スイス信仰告白 5.001-5.007; ウェストミンスター信仰告白 6.001-6.010; 6.116; 小教理問答 7.008-7.090; 大教理問答 7.113-7.115, 7.264-7.270; パルメン神学直教 8.11-8.12, 8.26; 1967年信仰告白 9.27-9.30, 9.49

って方針を決めるべきである。教会によって提供されている聖句日課は公同の教会との一貫性と連結を示すと共に、聖書の広範囲な朗読を保証している。

W-2.2004
聖書朗読の訓練

神の民が家庭礼拝と個人礼拝における聖書朗読を選択するときは、これと同じ原則によって行うべきである (W-5.3000)。神の言葉を教え、説教する責任を負う者は、彼らの個人礼拝において聖書全体から読む訓練を行うことを確実にする特別な責任を負っている。

W-2.2005
聖書の翻訳版

御言葉と聖礼典に仕える教職者は公同の礼拝で朗読される聖書箇所
の翻訳版を選択する責任がある。もし、意識を用いるならば、その翻案を
作り、新しい翻訳が準備されるならば、会衆に知らせなければならない。

W-2.2006
公同
の礼拝
におけ
る
聖書朗
読と聞
くこと

公同
の礼拝
におけ
る
聖書朗
読は明
瞭で聞
き取れ
るもの
であり
、その
本文の
意味に
注意が
払われ
るべき
であり
、その
朗読は
それを
準備し
た者に
委ねら
れるべ
きであ
る。聖
書朗読
を聞く
には期
待と集
中力を
要する
ので、
礼拝者
のため
の印刷
テキスト
を利用
するのは
有益で
ある。
会衆は
聖書朗
読を礼
拝の一
部とし
て応答
的、交
唱的に
、ある
いは声
を揃え
て読ん
でもよ
い。

W-2.2007
御言葉の説教

説教される御言葉 (preached Word) もしくは説教 (sermon) は書かれた御言葉に基づいていなければならない。説教は聖書の告知であり、それは、聖霊を通してイエス・キリストが集められた神の民に臨在し、恵みを差し出し、従順へと招いておられるという確信でなされる。説教をするには聖書の研究のための勤勉、洞察力、日々の祈りの訓練、事件や人々の生活に影響を及ぼす問題等に対する洗練された感受性、そしてイエス・キリストへの首尾一貫した個人的な服従が必要とされる。説教は福音を単純と明確さで人々に理解されることばで提供されなければならない。規則により、御言葉の説教は通常、御言葉と聖礼典に仕える教職者によってなされなければならない。御言葉と聖礼典に仕える教職者か中会によって権限が与えられた他の者が小会の賛同を得たうえで牧師により招かれることが出来る。あるいはまた、牧師が不在の場合は、小会が招くことが出来る。ある人を中会が説教をするために派遣することが出来る。

(G-6.0304; G-11.0103g,k; G-11.0502f; G-14.0420; G-14.0550; G-14.0560)

W-2.2008
他形式の宣教

神の御言葉はアンセムの歌や聖書テキストに基づいた独唱、聖書の物語を述べるカンタータやオラトリオ、詩編や頌歌、聖書の信仰の真理を示す讚美歌や霊歌、霊的な歌によっても宣教される。礼拝における歌は、人々の御言葉に対する応答を朗読したり、歌ったり、演じたり、あるいは告知するかたちで表現できる。演劇と舞踏、詩とページェント、そして、実に、非常に多くの人間の芸術的形態は神の民が御言葉を宣教し、それに応答したことを表現している。芸術的形態を通して御言葉を宣教することを委託

されている人は神の民が福音を受け取りそれに応える事により、福音は忠実に表されることに気をつけなければならない。

W-2.2009
信条と信仰告白

人々はまた御言葉の朗読と説教の応答として、諸信条と諸信仰告白を通して御言葉を表明する。(G-2.0100.) 教会はその信仰を以下との関係において告白する。

- a. 公同教会、
- b. 個別の歴史的遺産、
- c. 地域的な状況。

教会が執行する洗礼と主の晩餐の執行において信仰を告白する際は、公同教会の信条を用いるべきである (W-3.3603)。告白される御言葉は常に聖書に証しされている生ける御言イエス・キリストによって判断される。

W-2.2010
御言葉を聞くこと

人々が御言葉の説教に参加することは、何よりも、聞くことである。それは

- a. イエス・キリストを明確に認識すること、
- b. イエス・キリストから差し出された恵みを受け入れること、
- c. イエス・キリストの召しに服従して応答すること。

そのような参加は、熱心な祈りによって探し求められる聖霊の照明に負う。「聞くこと」と「聞かれる」という語は決して感覚受容の行為を意味するものではない。

W-2.3000

3. 洗礼

W-2.3001
イエスと洗礼

洗礼はキリストへ組み入れられるしるしであり印章である。イエスはご自身の洗礼を通して、全ての義を成就するためにご自身を罪人と同一化された。イエスはご自身の洗礼の時、父により御子であると証しされた。そしてイエスはご自身の苦しみと死と復活で明らかにされた僕の道を引き受けるために聖霊によって油注がれた。復活の主イエスは彼の従者にご自分の継続的な臨在と力を確信させて彼らを派遣された。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗

W-2.3000: スコットランド信仰告白 3.21-3.23 ; ハイデルベルク信仰問答 4.069-4.074; 第二スイス信仰告白 5.185-5.192; ウェストミンスター信仰告白 6.154-6.160; 小教理問答 7.094-7.095 ; 大教理問答 7.275-7.277, 7.286-7.287; 1967年信仰告白 9.51

W-2.3001: マタイ 3:15; 28:19-20; マルコ 10:38-40; 使徒 2:38-47.

礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいることを覚えていなさい。」(マタイ 28:19NRSV)。弟子たちは聖霊の注ぎによって、権能を与えられ、奉仕の生を引き受け、愛と正義と憐れみの溢れた生を共有する包括的な礼拝共同体となった。(W-1.3033)

W-2.3002

洗礼において死んで復活すること

洗礼において、わたしたちはイエスの死と復活に参加する。洗礼において、私たちは神からわたしたちを引き離すものに死に、キリストにおける新しい命へと復活させられる。洗礼はわたしたちのために死なれ、復活されたイエス・キリストにおいて表された後方にある神の恵みをわたしたちに指し示す。洗礼はまた、わたしたちの前方におられ、神の約束された未来に神の目的を遂行される同じキリストへと私たちに指し示す。

W-2.3003

契約と洗礼の水

洗礼において、聖霊は契約の教会をその創造者と主とに結び合わせる。洗礼の水は創造の水、洪水の水、出エジプトの水を象徴している。従って、洗礼の水はわたしたちを神の創造の善とノアとイスラエルとの神の契約の恵みへと関連づける。イスラエルの預言者たちは神の契約を尊ぶことに失敗した彼らの世代の只中で、公義を水のように、正義を尽きない川のように流れさせることを要求した(アモス 5:24)。彼らは神の恵みと創造の善—清める水の散水に伴う新しい契約—の新鮮な表現を思い描いていた。イエスはご自身のミニストリーのなかで生きる水の賜物を差し出された。従って、洗礼は神の恵みとキリストにおける契約のしるしであり印章である。

W-2.3004

恵みの契約に含まれていること

割礼は神の恵みとイスラエルとの契約のなかに合体されることのしるしであり象徴であるように、洗礼は神の恵みと教会との契約のなかに合体されていることのしるしであり象徴である。そのような身分の目印として、洗礼が意味することは

- a. 神の忠実、
- b. 罪の洗い清め、
- c. 再生、
- d. キリストの新しい服を着ること、
- e. 神の霊によって封印されること、

W-2.3002: ローマ 6:3-11; コロサイ 2:12

W-2.3003 創世 1:2; エレミヤ 31:31-34; エゼキエル 36:25-27; ヨハネ 4:7-15; 7:37, 38;
I コリント 10:1,2; I ペトロ 3:20-21

W-2.3004 創世 17:7-14; ヨハネ 3:5; 使徒 2:39; 22:16; I コリント 6:11,12; 12-13; II コリント 1:22; ガラテヤ 3:27; エフェソ 1:13-14; 5:14; コロサイ 2:11-12; テトス 3:5

- f. 教会の契約の家族の養子とされること、
- g. キリストにおける復活と照明、である。

W-2.3005 キリストの体は一つであり、洗礼はキリストとの結合の絆である。彼らが
キリストと互いの一致 信仰によってキリストと一つにされるように、洗礼は神の民を互いに一つにし、
それぞれの時代と場所にある教会を一つにする。人種やジェンダー、地位、年
齢の障壁は乗り越えられる。国籍、歴史、習慣の障壁は克服される。

W-2.3006 洗礼は御言葉が告知することを演じ、印章する。神の贖う恵みは全ての人々
に差し出された。洗礼は神の恵みの賜物であり、神の恵みへ応答する召喚状で
悔い改め、任命 もある。洗礼は悔い改め、忠実、そして弟子としての務めに召される。洗礼は
教会にそのような身分を与え、教会を世界のミニストリーに任命する。

W-2.3007 洗礼で示される神の忠実は、人間の神への忠実がそうでない時でも、常に
神の誠実さのし るしと印章 変わることなく確かである。洗礼は一度だけ受けるものである。洗礼の効力は
それが施される瞬間だけに束縛されるものではない。洗礼はキリストにある生
の始まりを意味するのであって、その完成を意味するのではないからである。
神の恵みは着実に働き、悔い改めと新しい生へと招くのである。神の忠実は更
新を必要としない。人間の神への忠実は繰り返し更新される必要がある。洗
礼の時に信仰を告白する人も、信仰の家庭で子どもの時から育てられている人
でも、洗礼はその後の人生の一つ一つの段階で決断を要求する。

W-2.3008 a. 信仰者とその子どもたちは、神の契約の愛の中に包まれている。信仰
“一つの洗礼” その意味 者の子どもたちは過度に遅れることなく、また過度に急ぐことなく洗礼を受け
るべきである。自らの信仰を告白して洗礼を施される人でも、子どもの時に洗
礼に与る人でも、洗礼は一つで同じ聖礼典である。

子どもたち b. 子どもたちの洗礼は、彼らが信仰をもって応答できる以前に神の愛
が彼らをご自分のものとされているという真理を証ししている。

成人 c. 自分自身の告白に基づいて契約に入れられる人々の洗礼は、神の
恵みの賜物は忠実な応答として達成されることを喚起するという真理を証しし
ている。

W-2.3009 洗礼を受けるのは一度のみである。しかしながら、礼拝において信仰者が
他者の洗礼を 想起する 継続的に働く神の恵みを認める時は多くある。他者の洗礼の祝いに参加する時、

W-2.3005 I コリント 12:12-13; ガラテヤ 3:27-28; エフェソ 2:11-22; 4:4-6

W-2.3006 マタイ 28:16-20; ルカ 3:3, 8-14; 使徒 2:38, 41-47; cf. イザヤ 44:3; ヨハネ 4:7-15;
7:37-38; 黙示 7:17, 22:17

主の晩餐の継続的な養いを体験する時、そして、洗礼の時になされた誓約を信仰者が再肯定する時、彼らは神の恵みの継続的な必要を告白し、またキリストにおける神の契約への自らの従順を改めて誓う。

W-2.3010
一つの体、
一つの洗礼

一つの体がある所に一つの洗礼もある（エフェソ 4:4-6）。アメリカ合衆国長老教会は他のキリスト教会によって執行された父と子と聖霊のみ名による水によるすべての洗礼を認める。

W-2.3011
洗礼にたいする
責任

a. 教会規則上、洗礼は、小会によって認可され、御言葉と聖礼典に仕える教職者、あるいは、小会によって招かれ、かつ中会で任命された信徒牧師によって、御言葉の朗読と説教を伴って、執行される（G-11.0103p；W-3.3602-3608）。洗礼は共同の礼拝の礼拝式の中で祝われる。特別な事情によって会衆全体の礼拝から離れて洗礼の執行が求められてもよい。そのような場合に配慮すべきことは以下の通りである。

- (1) 一人以上の小会の構成員によって会衆を代表すること。
- (2) 聖礼典の意味についての適切な理解が教職者から提供されること。
- (3) 可能な時には小会に諮ること。
- (4) 洗礼を執行する教職者が報告をし、小会がその記録を残すこと。

チャプレンらに
よる洗礼

b. 統治機関は以下に示す者に洗礼式を執行する権限を付与する。統治機関が認可する病院、刑務所、学校、又は統治機関がミニストリーを許可しているか、あるいは社会福祉事業等を行っているその他の施設で奉仕をしているチャプレン、もしくはその他の教職者；軍隊の構成員とその家族を牧するチャプレン；統治機関の管轄下で新しい教会を発展させる務めについている教職者。これらのすべての場合において、御言葉と聖礼典に仕える教職者は新しく洗礼を受けるものを個別的教会に登録する責任がある。このような登録はあらかじめ、その教会の小会と協議をするか、このような新しい受洗者を統治機関が指定した個別的教会の不在会員として登録しなければならない。そしてその管轄下に置くか、あるいは、新しい教会が組織されるまで統治機関がその登録を保管する。

W-2.3012
小会の責任

洗礼についての小会の責任は

- a. 信仰者の子どもたちの洗礼は過度に急ぐことなく、しかし、過度に遅れることがないようにとの思いを起こさせながらも、申し出た洗礼は正当であると伝えて、両親にその子の洗礼を申し出るように勧める。
(W-2.3014)
- b. (両)親か、もしくは実質的に親としての責任を担っている人(複)に、洗礼において神がなされることの意味と、キリスト者の生活において両親や会衆が洗礼を受ける人を育成する事の責任について知らせながら、

- 指導と協議をした後で、信徒の子供の洗礼を許可する。
- c. 信仰を自分で公に告白するに至っている人で、まだ洗礼を受けていない人には適切な指導と試験をした後で、洗礼を許可する。
 - d. 洗礼を受けた人全員を教会の会員として適切な名簿に登録する。
 - e. 洗礼を受けた人が、洗礼と主の晩餐との意味、それらの相互関係の意味を理解しているように育てられているか、また彼らがキリスト者の励ましと支援に囲まれているかを確認すること。(G-10.0102b,d,e; G-10.0302; W-2.3011)。

W-2.3013
教会の責任

公同の教会に代わって、全会衆は洗礼を受けた人のキリスト者としての生活を育成する責任をもっている。この務めを果たすに当たり、小会は信頼できる会員を育成のための特別な責任を持った教会の代表に指名することが出来る。自ら願い出た人や子供のために願い出た者と相談の上、小会は洗礼を受けたどんな人のためにも、アドヴァイザーを任命し、洗礼を受けた人を育てる特別な役目を与えることができる。(W-6.2001;W-6.2005)

W-2.3014
親の責任

子どもの洗礼を申し出る場合は通常、その親もしくは実際に親としての責任を果たしている人は活動会員でなければならない。子どもの洗礼を申し出る人々はその子が自ら信仰の告白をする準備が出来、教会の活動会員としての責任を持つに至るまで、信仰共同体の中で育成と導きを与えることを約束すべきである(W-4.2002; W-4.2003)。小会はまた他の教会の活動会員の子供の洗礼の願いを考慮することが出来る。小会がもしこの願いを承認するならば、他の教会の統治機関と協議し、聖礼典が執行された時はそのことを通知しなければならない。

W-2.4000

4. 主の晩餐

W-2.4001
イエスと晩餐

a. 主の晩餐は十字架につけられ、復活された主との交わりの中で食べ、飲むことの徴であり、印章である。イエスはご自身の地上のミニストリーの間、イエスの弟子たちとの交わりと受容の徴として、また御自身のミニストリーのための機会として食事を共にされた。イエスはイスラエルの契約の記念の祝宴を祝われた。

W-2.4000 スコットランド信仰告白 3.21-3.23; ハイデルベルク信仰問答 4.075-4.082; 第二スイス信仰告白 5.193-5.210; ウェストミンスター信仰告白 6.161-6.168; 小教理問答 7.096-7.097; 大教理問答 7.278-7.287; 1967年信仰告白 9.52

W-2.4001 マタイ 14:13-21; 15:32-39; ルカ 5:27-32; 7:36-50; 10:38-42; 並行箇所 ヨハネ 2:13; 5:1; 7:2-37; 10:22-33; 12:1-3; 13:1-4ff 共観福音書の並行箇所 マタイ 26:17-29; マルコ 14:12-25; ルカ 22:7-20, 24:41-43; ヨハネ 21:13; 使徒 1:4

最後の晩餐

b. 死の直前の最後の食事において、イエスは弟子たちと共にパンとぶどう酒を取り、それを分け合い、これらはご自分の体と血であり、新しい契約の徴であると語られた。イエスはご自身の死を想起し、告知するためにパンを裂き、杯を分かち合うことを命じられた。

復活

c. 復活の日、よみがえられたイエスはパンを裂いているなかで、従う者たちにご自身を知らしめた。イエスはまた、祝福し、パンを裂き、共同の食事を準備し、給仕し、食事を共に分かち合っご自分を信仰者に示し続けられた。(W-1.3033)。

W-2.4002

新約聖書における教会

新約聖書の教会は使徒の教えと、交わりと、祈りと共同の食事に専念した。使徒パウロは復活された主から受けた伝承を教会に渡した。主は、再びこられるまで、主の死を想起し、またそれを表示するため、弟子たちにパンと杯を分かち合うことを命じた。新約聖書はその食事をキリストに与り、互いに来るべき御国を待ち望み、メシアの祝宴を先取りするものとして記している。

W-2.4003

感謝

主の晩餐において、礼拝のために集まった教会は

- a. 神が創造と贖いと聖化を通して行って下さった全てのことの故に神をほめたたえ、
- b. 人間の罪にもかかわらず、神は世界と教会において働いておられることに感謝し、
- c. キリストが告知された神の国の成就を喜びをもって待ち望み、自らを従順な奉仕で神の支配へ献げる。

W-2.4004

想起

主の食卓において、教会は

- a. キリストの生と死と復活と再臨の約束を想起することにより新たにされ、力を与えられる。
- b. キリストの永遠の愛と、神の民にいつまでも臨在される誓いによって支えられる。
- c. キリストの自己奉獻に与ることにより、神の恵みの契約の中に封印される。

想起において、信仰者は彼らと世界に供せられたキリストの愛を受け取り、愛に信頼する。信仰者は和解し和解されることにより、恵みの契約の存在を明らかにする。そして、正義と平和の世界を再生するキリストの御支配の力を宣言

W-2.4002 使徒2:42, 46; I コリント 11:23-26; マタイ 8:11; 22:1; I コリント 10:16-17; 黙示 19:9; 参照 詩 107:1-3; イザヤ 25:6-8; 43:5-7

する。

W-2.4005
祈願

神の民が父なる神をほめたたえて感謝し、御子イエス・キリストを想起し、聖霊に求める祈りは

- a. 彼らをキリストの臨在の中へ高めて下さること。
- b. 彼らのパンとぶどう酒の供え物を受け入れて下さること。
- c. パンを裂き、杯を分け合うことにより、キリストの体と血に与ること。
- d. 彼らがキリストに結び合わされ、また、相互に結びあわされること。
- e. 彼らが天上と地上の全ての信仰者との交わりのなかで一つとされること。
- f. 彼らがキリストの体と血によって養われ、キリストの完全のなかへと成熟すること。
- g. 彼らをキリストの体として忠実な者とならしめ、世界にキリストを表し、神の御業を行うこと。

W-2.4006
信仰者のコミュニオン

主の食卓を囲んで、神の民はキリストとキリストにつながる全ての人々との交わりの中にある。キリストとの和解は相互の和解へと駆り立てる。洗礼を受けた全ての信仰者は食卓に招かれる。人種、性、年齢、経済的階層、社会的身分、障害者、文化や言語の相違、さらに、人間の不正義によって作られるいかなる障壁によっても人々は排除されるべきではない。主の食卓に集うに際して、信徒たちは隣人との間で起きる争いや分裂のさなかで、積極的にその和解を探求する。彼らが主の食卓に集まる時はいつでも、信仰共同体は、

- a. あらゆる場所における教会と一つとされ、全体教会が現れている。
- b. 三一の神に感謝をささげる時、天上と地上にある全ての信仰者は結び合わされる。
- c. 洗礼の時に行った誓いを新たにされる。

そして、彼らは神と、相互間と、世界の隣人とを愛し、仕えることに自分自身を新たに捧げる。

W-2.4007
神の国の食事の先取り

この食事において教会は神の民の喜びにあふれた祝宴を祝い、小羊の偉大な祝宴と婚宴を待ち望む。聖霊によってキリストの臨在の内へ連れこられ、教

W2-4005 I コリント 10:16

W2-4006 マタイ 23-24; 18:15-18; I コリント 11:18-22, 27-29; ガラテヤ 3:28; ヤコブ 2:1-7

W-2.4007 マタイ 22:1-10; ルカ 14:15-24; I コリント 15:20-28; エフェソ 1:23; フィリピ 2:10,11; コロサイ 3:1-4, I テサロニケ 4:16,17; 黙示 19:9; 詩 72:2-4, 12-14; イザヤ 2:1-4; ミカ 4:1-4, 6:8; マタイ 5:21-26; 28:18-20; ルカ 3:10-14; 4:18-21; 使徒 1:3-8; ヤコブ 2:14-17; I ヨハネ 3:16-18

会はキリストが栄光のうちに来られ、神が全てにおいて全てとなる日を熱心に待ち望み、祈り求める。この希望に養われ、教会は聖霊の力により主の食卓から立ち上がり、世界へ向かう神の伝道に参加し、福音を宣教し、憐れみを行い、神の御国がついに到来する時まで、正義と平和のために働く。

W-2.4008 御言葉と聖礼典の連携 礼拝する会衆の生活では、御言葉と聖礼典は不可欠な関係にある。主の晩餐が祝われる時は、いつも御言葉の朗読と説教が先立っていなければならない。(W-1.1005)

W-2-4009 時間、場所、頻度 主の晩餐は主の日の定まった礼拝の場所で、個々の事情と地域の教会に適した方法で守られねばならない。主の日毎に主の晩餐を祝うことは妥当である。主の晩餐は定期的に、主の日の礼拝に絶対に必要であると認められる頻度で祝うべきである。

W-2-4010 特別な機会 聖礼典の祝いが信仰共同体全体に開かれている限り、キリスト教共同体の生活において特別な意義をもつ別の機会に主の晩餐を祝うことも妥当である。病人や公同の礼拝から離れている人々へのミニストリーを広げる方法として、彼らへの訪問に関連して主の晩餐を祝うことが出来る。そのようにして聖礼典を祝う全ての機会に、御言葉は朗読され、説教されなければならない。このような祝いには数名の教会員が加わるとしても、それは私的な儀式や敬虔深い行為としてではなく、教会全体の行為として理解されるべきであって、教職者とか中会が聖礼典を執行する権限を与えた者だけでなく、小会が決めた一人かそれ以上の教会員を教会の代表として加わるべきである。(W-2.4012;W-3.3609-3618; W-3.62049)

W-2-4011 受けてよい者 a. 主の晩餐への招きは洗礼を受けた全ての人に及んでいるのであって、主の食卓に近づく事は価値ある者に与えられた権利ではなく、信仰と悔い改めと愛を持ってやって来る受けるに値しない者に与えられる特権である。この聖礼典でキリストを受け入れる準備をするには、信仰者は罪と破れを告白し、神と隣人との和解を追求し、罪を清められ新しくされるためにイエス・キリストを信頼することである。疑う者や信頼が揺れ動く者でさえ、イエス・キリストにおける神の愛と恵みを確信させられるために主の食卓に来るべきである。

洗礼を受けた子どもたち b. 洗礼を受けた子供で食卓へ招かれる意義とそれに対する応答の意味について養われ、導かれた者は、それに参与することの理解は成熟の度合いによって異なることを認めた上で、主の晩餐を受けるように招かれる。(W-4.2002)。

W-2.4011 大教理問答 7.281-7.282

W-2.4012
責任

a. 小会は個別的教会の生活における主の晩餐を執行する全ての責務を負っている。そして、聖礼典は定期的に、かつ、年間4度以下にならない回数で祝うことを確実にしなければならない。教会のその他のいかなる統治機関もまた、その会議の期間中に行う主の晩餐の時間を決めなければならない。統治機関は、その管轄下にある信仰者の集いの公の礼拝、または、伝道の証しをするか、あるいは認可されたミニストリーを行う施設での信仰者の集いにおける公の礼拝と関連する聖礼典の執行を許可することが出来る。統治機関は、それが責任を持っている施設の責任を負う適切な監督機関に主の晩餐の祝いを認める権限を委任することが出来る。(参照 W-3.6205)

チャプレンや
その他の人々

b. 病院や刑務所、学校、その他の施設に仕えるチャプレンやその他の教職者、または、軍隊の構成員とその家族に仕えるチャプレンは、個別の教職者が実行するミニストリーを管轄する統治機関が、彼らが主の晩餐を行うことを認めるときはそれを執行することが出来る。主の晩餐を執行することができる期間はその教職者の契約書か裏書に記載しなければならない。

教職者による執行

c. 教会規則上、主の晩餐の聖礼典は御言葉と聖礼典に仕える教職者、あるいは小会によって招かれ、かつ、中会によって委任された信徒牧師によって執行されなければならない。伝道上の配慮から中会の決定と認可によって例外をもうけることが出来る。(G-11.0103k,p,z ; G-14.0562)

W-2.5000

5. 自己奉獻

W.2.5001
キリストへの応答

キリスト者の生活は神への自己奉獻である。礼拝において、人々はイエス・キリストの犠牲的な自己奉獻を賜り、イエス・キリストのものとされ、自由にされ、自らの命、個々の賜物、能力、そして、物質による物をイエス・キリストに献げて応答するように導かれる。

W-2.5002
霊的な賜物を
献げること

礼拝は、いつも、信仰を告白し、教会と一体にされ、神の民の伝道に携わることにより弟子になるようにとのキリストの召しに応える機会を提供するべきである。併せて、弟子たちがイエス・キリストとイエスの世界伝道に自らの生活を新たに献げる機会をも提供するべきである。聖霊はキリストの体の伝道を強めるためにそれぞれの教会員を個々の賜物で恵まれるので、礼拝はこれらの賜物を再認する(to recognize) 機会と、それらを教会と世界でキリストに仕えるために提供する機会を提供しなければならない。

W-2.5001: 第二スイス信仰告白 5.110—5.123; ウェストミンスター信仰告白 6.008

W-2.5002: ローマ 12:4—8; I コリント 12; エフェソ 4:7—16

W-2.5003
物質の賜物と
物の奉獻

a. 礼拝で物質による物を献げることは神への応答として自己献身をあらわしており、共同の行為である。それは命とあらゆる物質による物を与え、また罪と悪から贖って下さった神への感謝の祈りの表明である。それはキリストの弟子たちによってなされる以下のような肯定である。

- (1) 彼らが被造世界全体の管理人(stewards)として献身すること、
- (2) 御言葉を全ての人々と共有し、全ての人々を配慮する責任、
- (3) 公同教会のなかで結ばれている信仰者と共に神の賜物を分かち合うこと、
- (4) キリストの体に結びついている共通の絆。

訓練された
寛大な支援

b. 旧約聖書においてイスラエルの民は神の家の業とそこで神に仕える人々を援助するために彼らの収入の十分の一をささげるように命じられた。新約聖書において使徒たちは教会の業が訓練された援助を必要とすることを認めた。イスラエルと初代教会の両方において人々は貧しい人々の必要に応じて惜しみなく与えるように勧められた。神は今日信仰者が教会のミニストリーの支援を提供するのに、訓練され、寛大になるようにと召されている。(W-5.5004)。

礼拝での受領

c. 公同礼拝の期間中、適切な時に、感謝の祈りの行為として、神の民の十分の一捧げものと献金が集められ受領される。

W-2.6000

6. 相互と世界とのかかわり

W-2.6001
共同体の祷告

礼拝は神の民の日常生活の活動である。この活動に於いて、会員相互のため、また彼らの生活と奉仕の質のための配慮は、罪深い世界の只中で共同体を創り出し、それを支える神の力の現実を表わしている。神が日々の生活の出来事に気遣っておられるように、礼拝共同体の構成員はふさわしい仕方で相互と世界における彼らの奉仕への関心を表明する。

挨拶

a. それは彼らが

- (1) (1) 礼拝で、互いに挨拶し、また彼らを礼拝で司式する人々による挨拶を受ける。
- (2) (2) 訪問者を歓迎し、彼らの出席に注意し、キリスト者の親切をひろげる。

W-2.5003: 創世 1:28ff; 2:15; レビ 23:22; 民数 18:21-29; 申命 28:7-12; 歴代下 24:8-14; マラキ 3:8-10; マタイ 28:19; 使徒 1:8; 2:44-45; 4:34-37; I コリント 16:1,2; II コリント 8:1-15; 9:5-15; I テモテ 5:17,18; ヤコブ 2:4; III ヨハネ 5-8; 第二スイス信仰告白 5.211

W-2.6000 第二スイス信仰告白 5.135; ウェストミンスター信仰告白 6:146-6.147; 1967年信仰告白 9.35-9.38

和解

b. 彼らは

- (1) 彼等自身の中にある傷や誤解、彼ら相互の破れた関係について、赦しを求め、また赦しを与える機会を作る。
- (2) キリストの和解と平和のしるしと言葉を交わし、神の和解の行為に応える。

祈りの準備

c. 彼らは

- (1) 会衆や教会や世界のなかで窮乏している人たちに代わって、関心を示し、彼等のために懇願をしながら執り成しの祈りの準備をする。
- (2) 生活と人生の変遷への感謝の祈りを献げ、喜ぶ人々と共に喜び、悲しむ人々と共に悲しむ。

解釈

d. 彼らは

- (1) 神の御言葉を日々の生活に適用する。
- (2) 教会の伝道と働きを理解する。
- (3) 信仰と奉仕の証しをたてる。

伝道

e. 彼らは

- (1) 契約を結び、それを更新する。
- (2) 憐れみと正義と、平和と、和解と証しをする共同体としての、また個人としてのミニストリーに自分自身を献げること、またそのために遣わされる。

第3章

W-3.0000

キリスト教礼拝の順序

W-3.1000

1. 礼拝順序の原則と源泉

W-3.1001
聖書と歴史

キリスト教礼拝の順序を整える責任をもつ者は聖書において、また、聖書を通して語られる聖霊の権威に忠実でなければならない。聖書を超えて、礼拝を整えることを保証するいかなるものも存在しない。しかしながら、教会の礼拝は歴史、文化、時代の必要性によって特徴づけられ、形作られてきた。従って、アメリカ合衆国長老教会の礼拝は、とりわけ、年代を重ねてきた改革主義の伝統による礼拝を持つ教会の歴史的経験によって導かれるべきである (W-1.4001)。

W-3.1002
形式と自由

a. 教会は常に礼拝における形式と自由の間の緊張を経験してきた。教会の歴史のなかで、ある者は神の御言葉に従った礼拝順序の形式を確立した。他の者は御言葉に忠実であろうと努力し、どのような固定した形式も礼拝共同体に押しつけることに抵抗してきた。アメリカ合衆国長老教会はすべての礼拝形式は暫定的であり、刷新されるものであることを認めている。礼拝順序を整えるに当たり、教会は聖霊の創造性に開かれていることを追求するべきである。聖霊は秩序を保っていながら、自発的であり、神の御言葉に首尾一貫していながら、神の未来の新鮮さに開かれた礼拝へと教会を導くからである。(W-1.4001)。

小会の指導

b. 礼拝における聖霊の顕現が教会全体を指導する。礼拝における行為が個人的な表現のためだけであったり、自分自身に注意を払ったり、礼拝に参加している会衆に鈍感である時は、彼らは秩序にかなっていないことになり、小会の助言と指導を必要とする。

W-3.1003
参加と指導

礼拝順序を整えることは地域の事情やその会衆の要求だけでなく、教会が活動しているところにある文化の多様性をも反映しているべきである。礼拝を整えることをきめる権限はそのように指名された人々に属し (G-6.0202 ; G-10.0102d ; W-1.4000)、礼拝の指導は賜物を持っている人々、訓練を受けた人々、認可された人々に割り当てられている一方、(W-1.4003)、礼拝の順序は参加者全員に提供され、またそれを奨められる。

W-3.1004
礼拝における
子どもたち

子どもたちは会衆の礼拝にいつも同席し、参加することによって、礼拝に特別な賜物をもたらし、信仰は成長する。子どもたちが礼拝に参加することを計画し導く責任をもっている者は、子どもたちの理解と応答能力の程度を考慮して過度に形式にこだわったり、また見下したりしてはならない。小会は教会の正規の

W-3.1000: スコットランド信仰告白 3.20: ウェストミンスター信仰告白 6.006

W-3.1002: I コリント 12-14

プログラムが主の日の御言葉と聖礼典の礼拝に子供たちが会衆全体と共に完全に参加することを妨げないよう保証するべきである。(W-3.3201;W-3.5202; W-6.2001; W-6.2006)

W-3.2000 2. 日々と季節

W-3.2001 日々 神は七日のうちの一日を聖なる日と定め、神の民が共同で礼拝をする時として選び分けた。神はまた、集会であろうと家庭であろうと、神の民による日々の礼拝を命じられた。(W-1.3011-3012; W-5.5001)

W-3.2002 教会暦 神は生活に秩序を与え、教会の礼拝に影響を与える季節のリズムを定めた(例 W-1.3013)。イエス・キリストにおける神の贖いの御業がイエスと神の民の生活における意義深い出来事と関連して教会に礼拝を秩序づける中心的パターンを提供した。従って、教会は下記の日と季節を守るようになった。

- a. 待降節、キリストの来臨の希望を想起し、主が再び来られ給うことを期待する季節。
- b. クリスマス、キリスト降誕の祝い。
- c. 公現日、全ての民に向けられた神の自己顕現を記念する日。
- d. レント、灰の水曜日から始まり、キリストの死と復活を予期しつつ、霊的な訓練とその準備をする季節。
- d. 聖週間 [受難週]、イエス・キリストの贖罪のための苦しみと死を想起し、告知する時。
- f. イースター、主の復活の日であり、喜びの季節である。その喜びは昇天までの主のミニストリーを祝い、その後もずっと継続する。
- g. 聖霊降臨日、教会に与えられた聖霊の賜物の祝い。

教会はまた、主の洗礼の主日、主の変容の主日、三位一体主日、諸聖徒の主日、王なるキリストの主日というようなその他の日を守っている。

W-3.2003 その他の季節 共同社会における人間生活はキリスト教礼拝にも影響を及ぼす様々なリズムを反映している。これらの中には市民、農業、学校、仕事の生活の年次サイクルがある。家族の記念と祝いの特別な時、そして、多様な文化的な様式、記念式、行事がある。教会は伝道活動を行っていく際に活動や計画、儀式的サイクルも作り出す。その時、そのような共同社会の出来事がキリスト教礼拝の中で適切な仕方
方で認識されてもよいが、一方で、それが主の日の福音の宣教を曖昧にしないよう配慮されなければならない。

W-3.3000

3. 主日礼拝

W-3.3100

a. 必要な行為

W-3.3101

主の日の礼拝において

含まれる項目

聖書

(1) 聖書は朗読され、説教されなければならない。(W-2.2001) 聖書箇所は旧・新約聖書の両者から選ぶべきである。(W-2.2002) 聖書は説教や他の聖書講解の形式で解き明かされなければならない。(W-2.2007-2008)

祈り

(2) 祈りは捧げられなければならない。(W-2.1001) 祈りは会衆を代表してさげることができる。会衆の参与は「アーメン」という共同の応答によって確認してもよい。祈りは声を合わせることや応唱的に受け応える祈祷、自発的な祈祷によって礼拝者の参加を薦めることが出来る。沈黙の時間が祈りと黙想のために定められてもよい。(W-2.1000)

音楽

(3) 音楽は聖書の提示と解釈として、福音への応答として、さらに詩編と頌歌、讃美歌とアンセム、霊歌と霊的な歌による祈りとして捧げることができる。

洗礼

(4) 洗礼の聖礼典は子どもたちか、あるいは自分自身が教会に加えられることを申し出たときに執行されなければならない。(W-2.3000)

主の晩餐

(5) 主の晩餐の聖礼典は小会の決定により、定期的に、かつ度々に祝われなければならない。(W-2.5000)

十分の一献金
と献げもの

(6) 人々の十分の一献金や献げものは集められ、受領される。(W-2.5000)

特別な時間

(7) 集合、挨拶、礼拝への招きの言葉のための時間、教会員の消息を共にするための時間、祝福と派遣の言葉の時間が個別的教会の生活にふさわしく礼拝の中で提供されるべきである。(W-2.6000)

特別な礼拝式

(8) 新しい会員の受け入れ、任職と就任、任命、契約とその更新、生活の変化を覚えそれを共にするため会衆の生活の中で求められる時に礼拝式順に定められるべきである。

W-3.3200

b. 行為の順序

W-3.3201
礼拝順序の
設定

主の日の礼拝順序を設定するにあたり、牧師は小会の同意の下、最年少者から最高齢者に至る人々が神への讃美を献げ、御言葉に聞き、応答するのに相応しい機会を準備しなければならない。(W-1.4004-4007; W-3.1004)

W-3.3202
勧められる
順序

ここで提供される礼拝順序は論理的な運びであり、旧・新約聖書に起源をもち、共同の教会の伝統と我々の改革主義の遺産を反映している。他の礼拝順序もまた個別的教会の必要に合っていて、秩序を保ち、聖書に忠実で、歴史的諸原理にあっていることであろう。以下の礼拝順序は神の御言葉に中心をもつ五つの主要な行為に照らして提示されている。

- (1) 御言葉を囲んで集う。
- (2) 御言葉を説教する。
- (3) 御言葉に応答する。
- (4) 御言葉を封印する。
- (5) 世界へ御言葉を携え、御言葉に従う。

W-3.3300

(1) 御言葉を囲んで集う

W-3.3301
集い

- (a) 礼拝は神の民が集う時に始まる。以下の一つ以上の行為が適切である。人々が互いに挨拶を交わしてもよい。人々は沈黙か、黙想で準備をしてもよい。教会員の消息の報告がなされてもよい。あるいは音楽が捧げられてもよい。
- (b) 人々は神を礼拝するために招かれる。聖書の御言葉が語られるか、歌われるかし、神がどなたであり、神が何を行われたかが説教される。
- (c) 祈りか崇拜と賞賛の讃美歌がささげられる。
- (d) 個人生活と共同生活における罪の現実の告白の祈りがその後続く。赦罪の宣言で福音が告知され、イエス・キリストの御名によって赦しが宣言される。神の贖いと神の人間の生活に対する戒めが想起される。
- (e) 神の民は神に栄光を帰する。そして、彼らはこの時点でキリストの和解と平和のしるしを分け合うことができる。

W-3.3400

(2) 御言葉を説教する

W-3.3401
説教

- (a) 神の御言葉の朗読、説教、聞くことの準備として、聖霊の照明を求める祈りがさげられることが必要である。
- (b) その日にふさわしい聖書箇所が、教職者や会衆の中の一人の会員によって読まれるか、あるいは、人々によって応答的か交唱的に、ある

いは声を合わせて朗読される。(W-2.2006)

- (c) 聖書箇所やその主題を説教したり解釈したりする詩編やアンセム、その他の音楽形式や芸術的表現が聖書箇所の朗読と共に含まれてもよい。
- (d) 御言葉は教職者によって語られる説教の中で説き明かしされなければならない。あるいは、小会で認められ、かつ牧師によって認められた別の形式で説き明かすことができる。(W-1.4004-4006; W-2.2007-2008)。この説教は祈りか、歓喜(acclamation)、栄光を神に帰して終わる。人々を弟子としての務めに招くことも適切である。(W-2.2007; W-2.2009)

W-3.3500

(3) 御言葉に応答する

W-3.3501
応答：肯定

御言葉の説教に対する応答は信仰による肯定と献身で表明される。会衆による共通の肯定は讃美歌を歌うことや他の適切な音楽による応答、あるいは教会の信条を告白したりして、捧げられねばならない。聖歌隊はアンセムや肯定の他の音楽の様式で会衆を導くことができる。個人的な応答の機会がこの間に、提供されてもよい。

W-3.3502
献身の肯定と
再肯定

御言葉への応答はまた献身(commitment)と再認〔多とすること〕(recognition)の行為を伴う。洗礼の聖礼典が執行されてもよい。(W-3.3601-3607) 洗礼を受ける信仰者たちが初めて公に信仰の告白を行う時、または、信仰者が信仰を再肯定したり、教会籍を移したりする時、彼らは個別的教会の会員として受け入れられる。(受け入れと委任の礼拝については W-4.2000; W-4.3000; 例 G-5.0000; G-10.0120b を見よ)。個々人や集まった会衆に洗礼の時になした献身を再肯定する機会を提供することは適切なことである。(W-4.2005)

W-3.3503
献身の他の行為

御言葉への応答として含めてよいその他の献身の行為は

- (a) キリスト者の結婚。(W-4.9000)
- (b) 教会役員の任職と就任。(W-4.4000)
- (c) キリスト教教育者、教会学校教師、組織体の役員、あるいはグループ・アドバイザーのような役割で、教会もしくは教会内での奉仕への委任。(W-4.3000; 例 W-3.3701)

W-3.3504
再認の行為

生活と生活の変化を再認して、感謝することは御言葉への応答として適切である。

- (a) 個人の生活と共同の生活における意義深い出来事を記念すること。
- (b) 再会を祝い、別れを告げること。
- (c) 逝去した人の生涯を心に覚え、想起すること。(参照 W-4.5000;

W-3.3505 信仰と奉仕の証し、また教会の伝道と計画の説明は御言葉への応答として
伝道への思い 礼拝の中を含められる。これらは御言葉への応答を反映する仕方では提示されるべきであり、これによって、人々は、執り成しと願いの祈りの備えと同時に、キリストと教会のミニストリーを支えるため自己奉獻と贈物とを準備することへと導かれる。

W-3.3506 神の民が御言葉に応答する時、捧げる執り成しの祈りは
祈り

- (a) 公同教会のために、そのミニストリーとそこで教職者として仕える人々のために、そうして、世界が信じるようになるため、
- (b) 世界のために、困窮の中にあるか特別な必要性をもつ人々のために、そして、権威を持つ全ての人々のために、そうして、平和と正義が支配するように、
- (c) 国家、州のために、地方の共同体のために、それらを治める人々のために、そして、彼らが何が正しいことかを知り、それを行う強さを持つように。

願いの祈りは以下のように捧げる。

- (d) 地域教会のために、そして、その教会が特別な問題と必要性に直面した際にキリストの心を持てるように。
- (e) 自らの信仰と格闘する人々のために、そして、その人々に確信が与えられるように。
- (f) 人生の移行期の只中にある人々のために、そして、彼らが導かれ、支えられるように。
- (g) 重大な決断に直面している人々のために、そして、彼らが知恵を受け取ることができるように。
- (h) 病気の人々や嘆きの中にある人々、孤独な人々、不安を抱えている人々のために、そして、彼らが慰められ、癒されるように。
- (i) 全ての教会員のために、そして、恵みが彼らを神の目的にふさわしいものとされるように。(W-2.1000)

この時罪の告白の祈りを含めてもよい。(W-3.3301) 礼拝に主の晩餐が含まれない時は、感謝の祈りがささげられ、主の祈りで終わる。(W-3.3613)。

W-3.3507 神の民の十分の一献金とささげものは、語られるか歌われる祈りと共に、
奉獻 集められ、受領される。(W-2.5003) もし、神の赦罪の保証の御言葉への応答の際に、和解と平和のしるしの交換がなされないならば、これらの交換を行う。(W-3.3301) 主の晩餐が祝われる時は、パンとぶどう酒の献げ物を御言葉への

感謝のうちに食卓へ持ち運ぶ。(W-2.4003 ; W-3,3609)

W-3.3600 (4) 御言葉を封印する：聖礼典

W-3.3601 洗礼と主の晩餐の聖礼典は、会衆が礼拝をするとき、信仰共同体のなかでな
印章としての された信仰の約束を封印する神の行為である。それはまた、説教された御言葉と
聖礼典 聖礼典で演じられた御言葉への信仰者の応答を含む。

W-3.3602 神の恵みと私たちの応答のしるしであり印章である洗礼の聖礼典 (W
洗礼 -2.3000) はキリスト者の献身の基本的な再認(recognition)である。それは御言葉
の朗読と説教に続いて適切に祝われる。また、洗礼の聖書の意味、自分自身か自
分の子どもたちに洗礼を志願する者のあるべき責任、更に、教会が引き受ける育
成に関することをも述べるべきである。

W-3.3603 子どもたちや自分自身のための洗礼の聖礼典を志願する者は以下の誓約を行
献身と誓約 う。

- (a) 主であり救い主であるイエス・キリストを信ずる信仰を告白し、
- (b) 悪を断ち、神の恵みにより頼むことを肯定し、
- (c) 教会の礼拝と伝道に積極的に責任を持って参加する意志を宣言し、
- (d) 彼らの子どもにキリスト者の育成を行う意思を宣言する。

会衆が行わなければならないことは

- (e) 使徒信条を用いて、その信仰を告白し、
- (f) 洗礼を受ける人を支えることを表明し、
- (g) 洗礼を受ける人の育成の責任を喜んで負うことを表明する。

長老がこれらの告白と肯定について会衆を指導することが出来る。

(W-2.2009 ; W-2.3011-3014)

W-3.3604 御言葉と聖礼典に仕える教職者は洗礼のための祈りをささげる。この祈りは
祈り

- (a) 神の契約の忠実に感謝を表明し、
- (b) 神の和解の御業をほめたたえ、
- (c) 聖霊が洗礼に臨んで力を与え、水を贖いと再生の水にし、教会が忠
実になることを願い求める。

W-3.3605 洗礼に使用される水はその土地にある普通のものであって、注いだり、振り
水 かけたり、浸水によって洗礼を受ける。どのような仕方でも、水は目に見えるよ
うに、豊富に用いるべきである。

W-3.3606 教職者は洗礼を受ける人に与えられた名前を用いて、三位一体の神の御名に
洗礼の言葉 おいて洗礼を授けなければならない。洗礼の定式は以下の通りである。
「_____」、父と子と聖霊とのみ名によって、わたしはあなたに洗礼を

授ける。

W-3.3607
他の諸行為

水を伴う洗礼の中心的行為が見劣りしないように配慮しなければならない。洗礼の歴史に深く根ざした諸行為で、祝福する際に手を置いたり、油を注いで、聖霊の注ぎを祈ったり、新しく洗礼を受けた人を会衆に紹介するというような行為も含めることが出来る。そのような行為が導入される際は、誤った解釈や誤解を避けるために注意深い説明が必用である。

W-3.3608
歓迎

新しく洗礼を受けた人はイエス・キリストの教会の一員とされたことを宣言されなければならない。会衆は歓迎の意を表す。礼拝がそのように整えられているときはいつでも、礼拝の中でその適当な時に洗礼に続いて主の晩餐を行ってもよい。

W-3.3609
主の晩餐：
準備

会衆は主の晩餐の聖礼典を祝うために自分自身を備えるべきである。(W-2.4006, W-2.4011, W-5.2001) 主の晩餐が主日毎に祝われない時は、その公示を少なくとも一週間前に提示しなければならない。主の晩餐が祝われる時は、礼拝が始まる前、あるいは十分の一献金と献げものが集められている間に、主の食卓が準備され、その食卓の上に物素が準備されるべきである。

W-3.3610
パン

共同体の生活にとって普通であるパンは、司式者が裂くために準備されるべきである。一つのパンを使用するのはキリストの体が一であること〔一致〕を表現している。会衆のためのパンは同じ一塊のパンから裂かれてもよいし、配餐にふさわしい仕方で準備されてもよい。

W-3.3611
杯

司式者が杯を提示するために用いる一つの杯とピッチャーを用意しなければならない。一つの共通した杯を使うことは聖礼典の共同の性質を示しており、これはまた、ただ一つの杯を引き合いに出す一貫した新約聖書を反映している。杯に注ぐことは世界のために流されたキリストの血を示している。個々の信仰共同体で用いられる配餐の方法は一つの杯を用意することを意味し、複数の杯は人々に用意するのに適しているからである。小会はぶどうの実のどのような形態を用いるかを決定する。この決定にあたり、小会は聖書の先例、教会の歴史、エキュメニカルな使用方法、地域の習慣、健康への配慮、また会衆の会員の良心等の情報を得るべきである。主の晩餐でぶどう酒が用いられる際には、いつでも未発酵のぶどう液をはっきり分かるようにしておき、それを好む人のために代用するべきである。

W-3.3610: I コリント 10:16-17

W-3.3611: マルコ 14:23ff とその並行箇所； I コリント 10:16,21；11:25-28；ローマ 14:1-23；I コリント 8:1-13；10:14-33；11:17-32

W-3.3612 教職者あるいは司式者は、人々を聖書の相応しい言葉を使って主の晩餐に招か
招き なければならない。(W-2.4011) もし、制定語 (I コリント 11:23-26、ある
いは福音書の並行箇所) がパン裂きて語られず、あるいは、感謝の祈りのなかに含
められていない場合には、これらの言葉を招きの一部として告げられるべきである。

W-3.3613 司式者は人々を以下の祈りによって導くべきである。
祈り

- (a) 創造と摂理に対し、契約の歴史に対し、季節ごとの祝福に対して讚
美の歡喜で神に感謝し、
- (b) イエス・キリストにおける神の救いの御業、イエスの誕生と生と死
と復活、來臨の約束、そして、主の晩餐の制定 (他で語られていな
ければ) を信仰の歡喜をもって想起し、
- (c) 人々を復活のキリストの臨在へと引き寄せて下さることを聖靈に祈
り、そして、彼らが
 - (1) 養われるように、
 - (2) 聖徒の交わりの中で神の民全体と復活のキリストとに結ば
れるように、
 - (3) 忠実な弟子として仕えるために遣わされるように。
三一の神をほめたたえながら、そして
- (d) 主の祈り。

W-3.3614 司式者は人々が見えるようにパンを取り、パンを裂く。もし、制定語がこれま
パン裂き だに招きの言葉の一部とか、聖餐の祈りの中で告げられていなければ、I コリント
11:23、24 がこの時に用いられねばならない。

W-3.3615 杯に注いだ後で、司式者は杯を人々の目に見えるようにしてそれを提示する。
杯の提示 もし、制定語がこれまで招きの言葉の一部として、あるいは聖餐の祈りの中で告げ
られていなければ、I コリント 11:25、26 がこの時に用いられねばならない。

W-3.3616 物素はその個々の場合に最もふさわしい仕方で配餐される。
パンと杯の配餐

集まる a. 人々はパンと杯を受けるために聖餐桌の周りに集まってもよい。人々は
物素を受け取るために給仕する人々のもとに来てよい。あるいは、給仕する者が
人々のいるところで配餐してもよい。

パン b. パンは聖餐桌の上にあるものを裂き、人々の手に置く。人々は一塊のパ
ンの裂かれた部分からか、あるいは配餐のために提供されたパンを裂いてもよい。
あるいはまた、配餐のために備えられたパンの一切れを受け取ってもよい。

杯 c. 一つの共通の杯が聖餐にあずかろうとする人々の全てに提供されてもよい。

幾つかの杯が提供され、共に与かってよい。あるいは、個人のための杯が配餐のために準備されてもよい。一つの共通の杯から飲むよりは、陪餐者たちが裂かれたパンをその杯に浸してもよい。

給仕

d. パンと杯は教会で任職された役員たち、もしくは他教会員で小会か、あるいは権限のある統治機関の招待を受けたものによって給仕されてもよい。

e. 教会で任職された二人又はそれ以上の役員によって行われる物素の給仕が教会の礼拝のところとは別のところにいる人々にまで広げて行われるためには、以下の条件が必要である。

- (1) 集まった会衆への配餐の直接的な延長として、同じ日の礼拝の後か、可能な限りそのすぐ後に、教会からの聖礼典の招きを受け入れた教会員に物素を給仕する場合。
- (2) 給仕をするに当たり、聖書が朗読され、祈りが捧げられることにより御言葉と聖礼典の一体が維持されることが配慮される場合。そして、
- (3) 給仕する者が前もって、小会または、権威ある統治機関から、このミニストリーの神学的、牧会的基礎と、その礼拝式の起源について指導を受けている場合。(W-6.3011)

W-3.3617

主の晩餐を受ける

パンと杯に共に与かる間は、

- (a) 人々は詩編、讚美歌、靈的な歌、あるいはその他の適切な歌を歌ってもよい。
- (b) 聖歌隊はアンセムや他の適切な音楽のささげものを歌ってもよい。
- (c) この場にふさわしい器楽が演奏されてもよい。
- (d) 聖書の適切な箇所が朗読されてもよい。
- (e) 人々が黙祈をするのもよい。

W-3.3618

陪餐後の祝福

全ての人々が陪餐に与り、物素が聖餐桌に残っているとき、司式者は聖礼典においてキリストの賜物に与ったことを神に感謝し、神の恵みにより、晩餐において人々が行った誓いを果たせるように願い、約束された御国の到来の願いを満たしてくださるようにとの祈りで人々を導く。会衆は詩編、頌歌、讚美歌、靈歌、あるいは靈的な歌を歌う。

W-3.3619

物素の処理

聖餐が終わった時は、聖餐のための物素は聖餐桌から取り除かれ、改革教会の聖礼典理解と良き管理の原則を弁えて小会が認めている仕方で見捨てるか、処理をする。

W-3.3700

(5) 世界へ御言葉を携え、御言葉に従う

W-3.3701
献身と再認の
行為

- (a) 弟子としての献身、洗礼を願う意思の宣言、洗礼時の誓いの再肯定等の行為は、聖礼典で受け入れた御言葉への応答に相応しい。
(W-2.4005; W-2.4007) 礼拝が終わりに近づくころ、献身と再認(recognition)にまつわる他の行為が見られることが出来る。人々が世界における福音伝道の働き、憐れみ、正義、和解、平和を作り出す働きをする特定の団体や個人の活動に携わるとか、委任されることが起こりうる。(W-4.3000)

人が去る時

- (b) 下記の理由で個別的教会の交わりから去ってゆく人々には、別れの言葉を持って再認されるのはよい。
(1') 上記の務めにつくため、あるいは
(2') 教育や兵役、転職、家族の環境、健康のために別の場所に移動するため。これはまた逝去した教会員を覚えるための適切な時である。

W-3.3702
三一の神の
御名による出
立

礼拝は正式な終了で締め括られる。これは人々がキリストの御名によって世界に出て行く義務を含む。これには三一の神の祝祷とか、II コリント 13:13 の使徒の祝祷のような聖書の言葉を使用した祝福の言葉を含むのも良い。人々が別れる時に和解と平和の徴を取り交わすのもよい。

W-3.4000

4. 日々の祈りの礼拝

W-3.4001
日々の祈り

a. 日々の祈りの礼拝は週を通して定期的に守られる公同の礼拝の礼拝式である。(W-1.3012; W-3.2001) この礼拝はそれを守っている教会や共同体の必要により、朝、正午、日暮れ、夕方、あるいは夜に捧げることができる。

御言葉と祈り

b. その礼拝には御言葉を朗読することと聞くこと、そして祈りを含まなければならない。

W-3.4002
聖書

聖書の箇所が朗読され、内省と黙想の時間が守られる。聖書の講解がなされてもよい。御言葉が音楽や演劇、舞踏で表現されてもよい。詩編と頌歌は特に日毎の祈りにふさわしい。それらを用いる時に礼拝者たちは御言葉を言い表し、御言葉に応答するからである。(W-2.2000)

W-3.4003
祈り

祈りは語られたり、歌われたり、行為で示されたり、沈黙のうちに捧げられることもよい。日毎の祈りは共同体における沈黙と黙想にユニークな機会を提供する。祈りはその全ての次元において共同体の共通の問題と個人の問題に特別な注意を払ってささげられるべきである。(W-2.1000)

W-3.4004

日毎の祈りは次のように運ばれるような順序にすべきである。

順序

- (1) 讚美
- (2) 御言葉の朗読と聞くこと
- (3) 黙想、祈り、歌で御言葉へ応答すること
- (4) キリストの御名によって出て行くこと。

W-3.4005

小会によって認められる礼拝は牧師との相談の下で計画が立てられるべきであり、よく準備が出来た役員や他の教会員によって導かれてもよい。

指導

W-3.5000

5. その他の定期的に予定された礼拝式 (Services of Worship)

W-3.5100

a. 日曜日の諸礼拝 (式)

W-3.5101

日曜日におけるその他の礼拝

日曜日の礼拝の主要な礼拝式は主日礼拝 (the Service for the Lord's Day) であり、ほとんどの会員が参加できる時間に予定される。その他の礼拝は定期的な日曜日の午前、午後、あるいは夕方に予定されてもよい。これらの礼拝の時間と性質は、会衆と共同体の必要性を考慮して小会が決定するべきである。これらの礼拝を計画する際には、主日礼拝の本来の姿を保つような配慮がなされるべきである。

W-3.5102

諸要素

これらの礼拝 (式) では御言葉を朗読し、聞くこと、祈り、そして、自己奉獻と、相互の交わりや世界との関わりの機会を持つ。(W-2.1000-2000; W-2.5000-6000) これらの礼拝では、祈りや会衆の歌、聖書を教えること、そして芸術による御言葉の解釈に特別の強調点を置いてもよい。そのような礼拝は御言葉の説教、あるいは牧師と小会によって認められた他の形態の宣教を含んでもよい (W-1.4000; W-2.2000; W-3.3400)。それらの機会に聖礼典が祝われてもよい。

W-3.5103

順序

個々の場合に関わるとき、おのおのの礼拝の順序は、この『指針』に示されている礼拝の諸原則を反映していなければならない。

W-3.5200

b. 教会学校

W-3.5201

教会学校

教会学校のいくつかのクラスが礼拝のために一緒に集まる時は、祈り、歌い、御言葉を朗読し、聞くための機会となるべきである。賜物を捧げることは自己奉獻と世界に関わることの適切な表現をする機会となる。

W-3.5202

諸要素と順序

各々の教会学校のクラスでは、定期的な礼拝の機会となるべきである。そのような礼拝は大きな集団のように、あまり形式的にならず自発的なものであってもよい。しかし、この礼拝では、御言葉をよく考えて生まれる祈りと歌を含むべ

きである。また、自己奉獻と献身の行為とその徴があってもよい。それから導かれる事柄は、

- (1) 洗礼の願いであり、
- (2) 主の晩餐への参加であり、
- (3) 洗礼の際の誓約を肯定することである。

教会学校の礼拝は主日の会衆全体のための礼拝への参加に代わるものではない。
(W-3.1004 ; W-3.3201 ; W-6.2001)

W-3.5300

c. 祈りのための集会

W-3.5301
祈りの集会

会衆の生活において、人々はいろいろな状況を作って祈りのために集まっても良い。小会はそのような集まりを認める責任を負っている。全ての人々に開かれ、定期的に予定された祈りの集会は、週の半ばの夕方に行われる祈祷礼拝や、午前や正午、午後の集会、朝食や昼食時の祈り会など、幾つかの形をとってもよい。もっと小さなグループが祈りのサークル、執り成しの交わり、あるいはカペナント・グループなどで定期的に祈ってもよい。地域の共同体、国内、エキュメニカル教会での特別な日や機会に人々を共に祈る礼拝に招いてもよい。

W-3.5302
諸要素

これらの礼拝において、御言葉が朗読され、聞かれる。さらに、御言葉が説教され、教えられ、話し合われてもよい。あるいは、音楽や他の芸術によって表現されてもよい。祈りが奉げられ、その祈りは語られたり、歌われたり、行為で示されたり、あるいは、沈黙のうちに共有されてもよい。再認の感謝や喜びの表明がなされたり、賜物を献げたり、イエス・キリストへの献身のための機会を作ってもよい。相互の消息は歓迎と和解と互いのミニストリーの言葉と行為によって示されてもよい。世界への関心は祈りと、憐れみ、正義、平和のミニストリーに、また証しに表明されてもよい。

W-3.5400

d. 健やかさのための礼拝式

W-3.5401
癒す礼拝式

癒しはイエスのミニストリーに不可欠な部分で、教会が人々の健やかさに対する関心の一つの要素として継続的に求められてきたものである。健やかさのための礼拝式を通して、教会は礼拝において癒す共同体としてのミニストリーを行為で表す。

W-3.5402
認定

健やかさのための礼拝式は小会によって認定されるもので、牧師の指導の下になされなければならない。このような礼拝式は通常に計画されている礼拝として、あるいは時折の礼拝として、あるいは主日礼拝の一部として守られる。
(W-3.3506) これらの礼拝は全ての人に開かれているべきであり、癒しを願う自分自身のためとか、特別な関心の対象になっている人のために制限されるべきではない。その礼拝は癒しを求める人々が容易に近づくことのできる場所で行われるべきである。

W-3.5403
祈りの諸形態

健やかさのための礼拝式において、礼拝の活力ある要素は祈りである。祈りは本質的に信仰において神に仕える時だからである。神の健やかさの約束への感謝、執り成し、そして願いが捧げられるべきである。口で表現されたり歌われたりする祈りの機会に加えて、黙祷のための十分な時間が提供されるべきである。手を置き、油を注ぐ行為による祈りは妥当である（ヤコブ 5:14）。祈りを行為で表すには、御言葉と聖礼典に仕える教職者が司式をし、信仰共同体の代表者がそれに参加することが必要である。

W-3.5404
御言葉と聖礼典

これらの祈りは朗読され説教される御言葉への応答である。特別に重要視しなければならないことは、キリストを通してなされる福音の健やかさへの約束を知らせることである。主の晩餐においてこの約束の封印が祝われてもよい。そしてこれは祈りと手を置くことに続く。生涯と賜物を奉仕の使命に捧げる機会を用意すると同時に世界における和解と、イエス・キリストの奉仕に改めて献身する機会を用意されるのもよい。

W-3.5405
癒しの源泉

健やかさのための礼拝で油注ぎと手を置くことを行うときは、これらの行為で表される祈りが誤って解釈されたり誤解を招いたりすることを避けるために、注意深く行うべきである。癒しは祈りを行為で示す人々の聖性とか、熱心さとか技量とか、あるいは、癒しを求める人々の信仰の結果として理解されるべきではなく、聖霊の力による神の賜物として理解されるべきである。

W-3.5500

e. 福音伝道のための礼拝式

W-3.5501
弟子としての招き

イエス・キリストへの応答に導かれる招きは主日礼拝において度々定期的に行われるべきである。(W-2.5002) 福音伝道という特有の目的のための礼拝を小会が認め、定まった季節にこのような礼拝式を設定することは当を得ている。(W-3.2003; W-7.2000)

W-3.5502
順序

福音伝道のための礼拝式における中心要素は御言葉の説教であり、特に強調される点は、キリストにおける神の贖いの恵み、イエス・キリストの人間の生に対する要求、また聖霊によって力を与えられた弟子としての生活への招きである。この宣教は下記のことを必要とする。

- (1) 聖書朗読と聞くこと、
- (2) 説教と証し、
- (3) 御言葉が歌われ、行為で示され、告白されること。

この中心的な行為を取り囲んで周辺の祈りがある。それは、

W-3.5500; ウェストミンスター信仰告白 6.055–6.058, 6.187–6.190

- (4) 礼拝の準備における祈り、
- (5) 礼拝そのものにおいては
神への讃美、感謝、告白、執り成し、また、願い、
- (6) 礼拝に続いて、
新しい弟子たちが献身へと助けられ、活発な教会生活に迎えられ
ることのため。

W-3.5503
献身

礼拝式は救い主イエス・キリストに対する献身や再び献身を新たにするこ
とと共に、キリストの体としての教会の契約共同体における生活へと明確に招くよ
うに働かなければならない。そのような献身は恵みのしるしであり、自己奉獻の
行為であり、それは以下の帰結を生み出す。

- (1) 相互の新しい関係、
- (2) ミニストーリーに捧げる自己の賜物の新しい自覚、
- (3) 世界におけるキリストの贖いの御業への新しい関わり。

W-3.5504
新しい献身へ
の応答

招きに応答する者は、献身に際して育成と指導の支援を受けて、弟子として
の生活に備えられなければならない。(G-5.0601) 初めて献身を表明する者は主
日礼拝で、信仰を公に告白しなければならない。まだ洗礼を受けていないものは、
その礼拝で洗礼を受けなければならない。献身を更新する者には主日礼拝でその
再肯定を公に認める機会を与えられなければならない。(W-3.3502; W-4.2000)

W-3.5600

f. 計画と伝道の解釈

W-3.5601
伝道礼拝の強
調点

教会の計画と伝道に対する解釈はこの目的のために催された礼拝と、適切
な時期に計画された礼拝の中で持ち上がることもある。(W-3.2003) これらの礼
拝での主要な中心はその小会が特別礼拝を認めた計画と伝道の解釈にかかっている。
その解釈に従って、そのような礼拝の中心的な強調点は世界への関わりと、
相互の関わりという点である。(W-2.6000)

W-3.5602
要素

御言葉は朗読され、聞かれるべきである。感謝と願い、執り成しの祈りは
その礼拝の中で説明されるミニストーリーの故に捧げられるべきである。物質的な
賜物を捧げる機会や生活の献身の機会を設けるのもよい。

W-3.5700

g. 地域会衆における特別なグループ

W-3.5701
特別なグループ

どこの地域会衆にも、年齢、ジェンダー、あるいは興味によって構成された
グループがあり、これらは定期的な会合を持っている。これらのグループの会合
で、通常、礼拝を行うべきで、この『指針』の原則が反映されるべきである。第
2章の礼拝の要素はこれらの会合において、聖礼典の祝いを除いて、適切である。
聖礼典の祝いは小会によって認められた礼拝行為で、通常は全会衆の参加を求め

るものである。

W-3.6000 6. 特別な集会

W-3.6100 a. 統治機関

W-3.6101 統治機関は定期的に礼拝し、その礼拝はこの『指針』の諸原則に従って順序を決めるべきである。各統治機関はその礼拝の責任と監督を委託されたグループを設置すべきである。統治機関の会議における礼拝の計画の立案と運営のためガイドラインを採用してもよい。

W-3.6102 小会より上位の統治機関において、定期的に御言葉の朗読と説教を聞くこと、また、定期的に度々行う主の晩餐の祝いのための規定が作成されるべきである (G-9.0301)。

W-3.6103 統治機関の全ての会議は祈りで始まり、祈りで閉じられるべきであり (G-9.0301)、その審議中に祈りのための十分な機会を設けるべきである。祈りは統治機関の進行との関連で、神への讃美、感謝、告白、執り成し、願いを表明するべきである。

W-3.6200 b. 修養会、キャンプ、協議会、特別な集会

W-3.6201 統治機関はその管轄下にある特別集会における礼拝を認める責務を負っている。礼拝は修養会、キャンプ、協議会の活動に不可欠な一部である。その礼拝はこの『指針』の諸原則によって導かれ、そのガイドラインが適切な統治機関によって作成されるべきである。

W-3.6202 礼拝の性質と焦点は集会のタイプ、その目的、その参加者、その地域、時期、さらに、その生活のリズムと秩序によって変わっていく。礼拝は日毎の祈りの順序を使用してもよいし (W-3.4000)、主日礼拝に習ってもよい (W-3.3000)。あるいは、この『指針』に記述されたその他の礼拝の様式を採用してもよい。 (W-3.5000)

W-3.6203 それぞれの集会にふさわしい礼拝の要素は祈り、聖書の朗読と聞くこと、自己奉献、そして相互関係と世界との関係である。 (W-2.1000 ; W-2.2000 ; W-2.5000 ; W-2.6000) 礼拝の異なる要素は異なる背景に従って強調されてもよい。例えば、

- (1) 黙祷による修養会、結婚生活を豊かにする会、
- (2) 野営キャンプ、伝道キャラバン、
- (3) 青年指導者、もしくは、音楽の協議会である。

しかし、いずれの場合でも御言葉が十分に提示され、適切な祈りが捧げられなければならない。(W-2.1000-.2000)。

W-3.6204

特別な集会上
おける主の晩
餐

下記の特別な集会上において主の晩餐の聖礼典が執行されるのは適切である。

- (1) 集会上に責任を負う統治機関によって、あるいは、その行事が行われる地域の公会によって認められる場合。
- (2) 御言葉と聖礼典に仕える教職者が司式し、教会の他の役員が出席している場合。
- (3) 御言葉の説教、あるいは、統治機関によって認められた他の宣教形態に続いて守られる礼拝において主の晩餐が祝われる場合。
- (4) 少人数による信仰心の鍛錬ではなく、信仰共同体全体の生活が参加するものとして理解される場合。(W-2.4010-4012)

多くの異なる教会から、多様な民族的、文化的集団から、もしくはエキュメニカル集団から、キリスト者が集って主の晩餐を祝うときには、教会はキリストの体の一致を強く証しする。(W-2.4006)

W-3.6205

エキュメニカ
ル・ユーカーリ
スト

エキュメニカルな会合で主の晩餐の執行もしくはその祝いに参加するために招かれた御言葉と聖礼典に仕える教職者は、その参加が改革教会の理解と矛盾しない範囲内において、それを行う権能を持っている。